令和4年度計画の達成状況に基づく点検・評価報告書

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
〇医療保健学部看護学科							
【計画 10-1】 🍞							
医療保健学部看護学科の新カリキュ							
ラムの運用と評価を実施する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 10-1】						
1. 学年別目標の周知と評価の実施。	1. 学年別目標の周知と評価:4 月履	Ш	1. 学年目標(旧:学年別目標)は5月に教授会で承認された。そのため令和4年度入				
2. e ポートフォリオの運用。	修ガイダンスで説明、2~3 月学年別		学生への説明は、7月に行った。卒業時到達目標(3・4年生)・学年目標(1・2年生)				
3. 新カリキュラムのモニタリング・	目標に沿った学生自己評価の実施。		の自己評価は、4年生は2月13日に実施し、96名が回答した(回答率92.3%)。1~				
新規科目の準備・改善・評価の実	2. e ポートフォリオの運用開始。		3年生は3月28日に説明し、4月10日までの回答期間を設定した。3月29日現在、				
施。	3. 新カリキュラムのモニタリング・		1 年生 88.2%、2 年生 85.6%、3 年生 87%と前年度の 53.6~59.6%から大幅に上昇				
	新規科目の準備。		した。				
「評価指標」	「評価指標」		2. WebClass の修学カルテを利用し、e ポートフォリオを実装し、3 月末の卒業時到達				
・学年別目標の自己評価実施学生数:	・学年別目標の自己評価実施学生数:		目標・学年別目標自己評価から運用を開始する。				
90%以上	全学年 75%以上		3. 夏季および春季看護学科 FD 研修会で、当学科におけるポートフォリオの説明を行				
・e ポートフォリオの実施学生数:	・e ポートフォリオの実施学生数:		った。関連事項として、全教員に対し、各科目の DP 重みづけワークを行い、担当科				
80%	80% (1年生のみ)		目の本学科カリキュラムにおける位置づけを確認する機会とした。2 月各科目の DP				
・カリキュラム・教育に関する企画の	・カリキュラム・教育に関する企画の		重みづけがほぼ確定し、その結果を受けて、履修系統図を修正、2023年度以降のディ				
実施:年2回以上	実施:年2回以上		プロマ・サプリメントに適用を開始する。				
・カリキュラム評価に関する会議の							
開催:年1回以上(令和5年度)							
【計画 10-2】⑦							
グローバル人材の育成のための取組							
みを推進する。							
「計画達成のための方策」	【年度計 10-2】						
1. 看護学科グローバル人材育成に向	1. 看護学科グローバル人材育成に向	Ш	1. 看護学科が目指すグローバル人材とは/必要とされる資質/関連する科目について				
けた全体構想の検討・実装・評価・	けた全体構想の検討。		検討した。学科教員の意見聴取を経て資料を作成した。学生向けの紹介動画も作成し、				
改善の実施。			当初ガイダンスにおける説明準備をすすめた。				
2. 外国人模擬患者を対象としたシミ	2. 外国人模擬患者を対象としたシミ		2. 令和5年3月3日、6日、7日に実施、参加学生数15名(1~4年次)だった(ア				
ュレーションプログラムの実施。	ュレーションプログラムの実施。		ンケート回収率 50%)。				
3. レニック先生の英語クリニックの	3. レニック先生の英語クリニックの		3. レニック・ニコラス先生がNTT東日本関東病院から移籍されたことにより、レニ				
継続実施と評価の実施。	継続実施と評価の実施。		ック先生の時間の確保、謝礼の支払いなどが必要となったことから今後の活動継続に				
「評価指標」	「評価指標」		ついては検討している。				
・外国人模擬患者を対象としたシミ	・外国人模擬患者を対象としたシミ		【その他の活動実績】				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	==: / 	令和 4 年度計画達成状況	=;: !	自己点検・評価委員会	=== 1==	内部質保証推進会議
为《初个初刊画	1741 千 千 及 们	評価区分	月和十千及計画建成状况	評価 区分	日七点快 叶侧安良女	評価 区分	71叩貝 体血性医女母
	ュレーションプログラム 10 名以上、	应 刀	・グロプロ会議 11 回/年。	(上方)		区方	
アンケート回収率 90%以上	アンケート回収率 90%以上		・活動実績広報件数 4 件 (内訳:リレー講演各回計 3 回、学科報告会 1 回)。				
・レニック先生の英語クリニックの			・育成したい人材像を踏まえた「国際看護論(選択)」科目構成(担当者含む)を検				
参加者数 10 名以上(年)、アンケート			討し、次年度開講準備。				
回収率 90%以上	回収率 90%以上		・リレー講演「世界の医療ケアを知ってみよう」の開催(第 1 回 12 月 22 日レニッ				
・グロプロ会議回数 10 回/年	- グロプロ会議回数 10 回/年		ク・ニコラス先生、第2回1月12日 MICHIKO 先生、第3回2月10日佐々江龍一郎先				
•活動実績広報件数3件以上	· 活動実績広報件数 3 件以上		生)。申し込み者総数数(オンデマンド視聴者含む)1回目202名、2回目202名、3				
			回目 227 名 (リアルタイムオンライン参加者第 1 回 86 名/第 2 回 61 名、第 3 回 73				
【計画 10-3】 🍞			名)。				
学生サポートによるへこたれない心							
の育成を図る。							
「計画達成のための方策」	【年度計 10-3】						
1. 新入生ガイダンスにて、学生生活	1. 新入生ガイダンスにて、学生生活	Ш	1.2.看護学科学生委員会では、学生自身の援助希求育成に寄与するために、新入生ガ				
ガイダンス及びアドバイザー活動を	ガイダンス及びアドバイザー活動を		イダンスにて、学生生活ガイダンスおよびアドバイザー活動を実施している。その満				
実施する。	実施する。		足度を評価し、次年度のガイダンスに向けて成果と改善点を明らかにするため、令和				
2. 新入生ガイダンス実施後に、	2. 新入生ガイダンス実施後に、		4 年度の 5 月~6 月に任意の web アンケートを実施した(回答率約 82%)。				
Forms を用いたアンケートを実施	Forms を用いたアンケートを実施		・質問項目の構成は「大学全体の各種相談窓口について」「看護学科のアドバイザー				
し、アドバイザー制度・アドバイザ	し、アドバイザー制度・アドバイザ		制度について」「"キャンパスライフリーフレット"について」「学生生活サポート制				
一教員の連絡先・学生相談室・障が	一教員の連絡先・学生相談室・障が		度に対する受け止めついて」「4月5日に実施した新入生への"学生生活ガイダンス"				
い学生支援制度の認知度、及びアド	い学生支援制度の認知度、及びアド		について」である。				
バイザー活動の満足度を評価する。	バイザー活動の満足度を評価する。		・結果として、全体の理解度の平均は 79%で、満足度はとても満足、まあ満足を合わ				
3. この評価をもとに、次年度のガイ	3. この評価をもとに、次年度のガイ		せて約83% (n=95) と高い満足度であった。自由記述では「相談ができる場所がある				
ダンスに向けて成果と改善点を明ら	ダンスに向けて成果と改善点を明ら		と知って気持ちが楽になりました、サポートが手厚くてありがたいと感じた、高校生				
かにする。	かにする。		の時とは違い、自分から積極的に行動していく必要があると思いました」など前向き				
「評価指標」	「評価指標」		なコメントがみられた。				
・新入生ガイダンス実施後アンケー	・新入生ガイダンス実施後アンケー		・次年度のガイダンスは、現時点では従来通りの実施で問題はないと判断し計画する				
トの実施状況	トの実施状況		こととした。				
・アドバイザー制度、アドバイザー教	・アドバイザー制度、アドバイザー教						
員の連絡先の認知度 100%	員の連絡先の認知度 100%						
・学生相談室の認知度 100%	・学生相談室の認知度 100%						
・障がい学生支援制度の認知度	・障がい学生支援制度の認知度						
100%	100%						
・新入生ガイダンス時のアドバイザ	・新入生ガイダンス時のアドバイザ						
一活動の満足度 (満足している人)	一活動の満足度 (満足している人)						
80%	80%						

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
【計画 10-4】 🍞							
臨地実習指導者講習会を実施する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 10-4】						
1. 臨地実習指導者講習会を、看護学	1. 臨地実習指導者講習会を、看護学	Ш	1. 看護学科実習委員会の担当者 3 名を中心に企画・運営・評価を実施できた。				
科実習委員会の担当メンバーを中心	科実習委員会の担当メンバーを中心	ш	2.9月に2日間の基本知識の講義・演習については、学内教員5名の協力を得て実施				
として実施する。	として実施する。		できた。				
2. 研修会プログラムは令和元年度の	こうくスポングの 2. 研修会プログラムは令和元年度の		3.10月から12月に本学の実習を担当していただき、実践を踏まえて実習指導者とし				
内容を踏襲し、9月に2日間の基本	内容を踏襲し、9月に2日間の基本		て各自2事例を提出し、1月にグループリフレクションを実施することができた。				
知識の講義・演習を実施することと	知識の講義・演習を実施することと		4. 感染対策により、リモート研修としたことで、訪問看護ステーションや老健・特養				
し、講師は学内教員から募集する。	し、講師は学内教員から募集する。		施設の指導者は参加しやすい環境があった。一方、全体の参加人数が予定より少なく				
3. 対象者の看護師に 10 月~12 月の	3. 対象者の看護師に 10 月~12 月の		留まったことに関しては、本学のプログラム以外の外部研修を利用した方や感染状況				
実習指導のリフレクションシート記	実習指導のリフレクションシート記		の中で指導者役割の方の勤務調整などが影響したと推測できた。予定人数には満たな				
載を課し、1月に各参加者の実習指	載を課し、1月に各参加者の実習指		かったものの、研修アンケートでは、理解できた、役立ったという回答であり、他の				
導体験のリフレクション演習を行	導体験のリフレクション演習を行		人にも勧めたいということで参加者の満足度は高かったため、次年度は評価指標を人				
う。	j.		数ではなく研修評価内容も加味し、同内容で引き続き開催をする予定とした。				
・。 4. 令和 3 年度から 5 年間実施し、評	^。 4. 令和 3 年度から 5 年間実施し、評		「評価指標」				
価、その後の継続について委員会内	価、その後の継続について委員会内		・病院・クリニック:5 施設 7名				
で検討する。	で検討する。		・特養・老健: 2 施設 2 名				
「評価指標」	「評価指標」		・学内教員1名(講師や運営を除く)				
·実習病院·施設の参加者 看護師 30			計 10 名				
名、教員 15 名	名、教員 15 名						
11 1/2/ 12 1	11 3000						
【計画 10-5】 🍞							
医療保健学部看護学科卒業生を対象							
としたホームカミングデイを実施す							
る。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 10-5】						
1. 医療保健学部看護学科卒業生を対	1. 医療保健学部看護学科卒業生を対	Ш	 1. ホームカミングデイを令和 5 年 1 月 13 日に開催し、卒業生 5 名、在学生等 5 名、				
象としたホームカミングデイを実施	象としたホームカミングデイを実施		教職員 27 名が参加した。				
することとし、卒業生によるパネル	することとし、卒業生によるパネル		2.今年度は令和5年4月より本学大学院にプライマリケア看護学領域が開設される				
ディスカッション及び運営を教員	ディスカッション及び運営を教員		こと併せ「高度な看護実践能力」をテーマに企画した。また本学の卒業生支援に関す				
(看護学科就職対策委員会) と協働	(看護学科就職対策委員会)と協働		る訴求力向上を目的として今年度はマギーズ東京の秋山正子氏を講師に迎え講演会				
して行う。	して行う。		と交流会を実施した。開催に係る費用は看護学科特別研究費を申請し運営に充てた。				
2. パネルディスカッションのテーマ			参加した卒業生からは「著名な講師の講演がありがたかった」、「看護職が何ができる				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
は目的に合わせて年度毎に検討す	は目的に合わせて年度毎に検討す		か考える機会になった」などの感想もあり卒業生のキャリアを考える一助となってい				
る。	る。		ると考えられるが、卒業生の参加が少ないため周知方法等開催方法等について今後も				
「評価指標」	「評価指標」		評価検討を行っていきたい。				
・ホームカミングデイの参加状況卒	・ホームカミングデイの参加状況卒						
業生30名、教員20名、在校生10名	業生30名、教員20名、在校生10名						
〇医療保健学部医療栄養学科							
【計画 11-1】 🍞							
専門性の高い心温かい医療人の育成							
の観点から、ボランティア活動を推進							
する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 11-1】						
1. 主に「せたがやハウス」を利用し、	1.「せたがやハウス」に滞在する入	IV	1. 4回の実施を計画し、ボランティア学生を募り、延べ7名がボランティア活動を行				
国立成育医療研究センター病院にて	院中の子どもに付き添う親への食事		った。				
付き添い入院している家族へ焼き菓	支援として、焼き菓子及び食育媒体	Ш	2. 焼き菓子および食育カードを作成し、計3回の提供を実施した。				
子等の提供や食育媒体の提供を行う。	の作成を行うため、医療栄養学科1		・上記の通り、ほぼ予定通りの進捗であったが、本活動は社会貢献の側面が強く、医				
	年生から4年生の学生にメール等で		療栄養学科では本計画以外にも同様の社会貢献活動を複数実施している。そこで、次				
	アナウンスし、ボランティアを募		年度から、第9章に新たな計画として「地域への社会貢献活動の推進」を設定し、本				
	る 。		活動もその中で進めていく。				
	2.1 グループ4名程度のチームで、		・一方、医療栄養学科では、過去から教育の改善活動を継続的に進めている。そこで、				
	焼き菓子の考案、作成(本学)及び		次年度の計画に「教育の質の向上」、「リメディアル教育の改善」を追加し、それらの				
	提供を行う。		活動を見える化する。				
	また、食育カードを作成する。						
「評価指標」	「評価指標」						
・主に「せたがやハウス」を利用し、	主に「せたがやハウス」を利用し、						
国立成育医療研究センター病院にて	国立成育医療研究センター病院にて						
付き添い入院している家族へ焼き菓	付き添い入院している家族へ焼き菓						
子等の提供を実施:3回/年	子等の提供を実施:3回/年						
※COVID-19感染拡大状況により、「せ	・主に「せたがやハウス」を利用し、						
たがやハウス」での食事支援活動が可	国立成育医療研究センター病院にて						
能になれば、食事提供を実施:1~2回	付き添い入院している家族へ食育媒						
/年	体の提供:3回/年						
・主に「せたがやハウス」を利用し、	・ボランティア学生: 4 名程度×3 回						
国立成育医療研究センター病院にて	=12 名						
付き添い入院している家族へ食育媒							

第3期中期計画	│ 令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
··· · · · · · · · · · · · · · · · · ·		区分		評価 区分		区分	HIA
 体の提供:3 回/年		E-73		E-75		1277	
・ボランティア学生: 4 名程度×3 回							
=12 名							
【計画 11-2】⑦							
病院内で横断的な活動を求められる							
管理栄養士として、必要な知識及びス							
キルを日々更新していくことが重要							
であることから、「医療現場で活用す							
るための栄養管理」を学習するための							
研修会を開催する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 11-2】						
本学教員及び関連施設の医療従事者	疾患別の治療薬や症例検討をテーマ	I	・東京医療保健大学医療栄養学科令和 4 年度年度卒後教育を対面にて開催し、16 名				
が講師となり、栄養補給法、疾患別の	とする研修会を開催することとし		の卒業生が参加した(令和5年3月18日)。				
栄養管理の実際、在宅栄養管理につい	て、卒業生や卒業生の職場の管理栄		・今年度は今後の実施方法の見直しを図るための調査に重点を置いたため、年度計画				
て、講義及び演習を開催する。(栄養	養士に向けて参加を募集する。ま		を達成できていない。				
管理ビジュアルガイドを基準とする)	た、企業の協力を依頼する。講師と		・卒業生のニーズ把握を目的に、9月に卒後教育に関するWEBアンケートを医療栄養				
	して管理栄養士以外の他職種にも講		学科卒業生に実施し、148名から回答を得た。その結果、医療分野に限らず幅広い分				
	師依頼する。		野の情報提供を求めていること、卒業生同士の情報交換の場が必要であることが明ら				
「評価指標」	「評価指標」		かとなった。				
研修会の実施回数:年3回以上かつ年	研修会の実施回数:年3回以上かつ年		・そこで、次年度以降は病院の管理栄養士だけを対象とするのではなく、対象を広げ				
間の参加者数を卒業生・一般で 100 名	間の参加者数を卒業生・一般で 100 名		て「卒後教育の拡充」を計画として掲げ、講義内容および運営方法を改善する。				
以上	以上						
【計画 11-3】 🍞							
卒業時に管理栄養士国家試験合格が							
叶わなかった卒業生に対し卒業後に							
管理栄養士免許を取得できるように							
支援する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 11-3】						
1. 卒業生向け管理栄養士国家試験対	在校生の特別講座と同時に開催する	IV	1. 卒業生向けの対策講座を開催したが、参加者はいなかった。				
策講座を在校生の特別講義と同時開	こととし、動画配信の準備・試行、	IV	2. ガイドライン改訂などの情報提供を希望した卒業生にメールで情報提供を継続し				
催する。	メール配信による情報提供と声掛け		た。また、一部の科目について対策講座の動画配信を始め、卒業生に動画配信の案内				
	を継続する。		メールを配信したが、視聴希望者はほぼいなかった。				
			・上記の通り、講座の希望者がほぼいなかったため、本計画は一旦中断する。一方、				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
2. 卒業後にガイドラインの改訂など			次年度から対象を広げる予定の計画 11-2 「卒後教育の拡充」の中で、本活動も含め卒				
があった場合は、卒業生対象に講座を			業生に対し何に注力すべきかについて、再検討する。				
開講する。この場合、日常業務と並行							
しての講座は日程調整で困難がある							
ため、講座は動画配信で開講する。							
「評価指標」	「評価指標」						
・参加者の合格率 50%以上	・参加者の合格率 50%以上						
【計画 11-4】⑦							
既卒であっても本学で栄養教諭一種							
免許を取得可能とし、学校栄養職員か							
 ら栄養教諭への任用替えを目指す卒							
業生への支援策を検討する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 11-4】						
 本学科栄養教諭委員が担当し、科目等 履	愛修規定の作成並びに履修科目の設	Ш	・本大学における科目等履修に対する規定に従い、医療栄養学科において、卒業生の				
│ │履修にて栄養教諭一種に必要な科目 │ 定	定を行う 。		教職科目履修の支援がどこまで実施可能か調査した。組織については、学科内の教職				
(栄養教育実習を含む)を修得できる			課程委員会が対応するだけでなく、全学的な組織である教職課程委員会が対応するこ				
時間割・組織を構築することが将来的			とも必須であると判明した。また、時間割内の受講は可能であると判明した。				
に可能か調査を行う。			・一方、本学卒業生の希望者がほぼいなかったことから、本計画を単独で進めること				
1. 他大学の取組状況から本学で教職			は一旦中断することにした。その上で、今後は、次年度から対象を広げる予定の計画				
科目履修可能な状況を見出し、今後の			11-2「卒後教育の拡充」の中で、本計画も含め、何に注力すべきか、改めて検討して				
生涯学習支援がどこまで実施可能か			いく。				
調査研究する。							
2. 時間割作成について、重点として取							
り組む。							
3. 本校勤務者並びに非常勤講師招聘							
が可能か調査研究する。							
「評価指標」	「評価指標」						
・調査研究の実施状況等・	・調査研究の実施状況						
【計画 11-5】⑦							
古代食の復元研究について、歴史民							
俗博物館との共同研究を引き続き実							
施し、研究成果を学術雑誌やシンポ							
ジウムの開催を通じ、成果発表を行							

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会講
		区分		区分		区分	
う。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 11-5】						
歴史民俗博物館との共同研究(令和 5	科研費基盤Aの国内での古代食研究	Ш	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響から海外調査は出来なかったが、国内調査に				
年度) と科学研究費助成金基盤研究 A	調査の実施。		変更して古代の食品の再現実験を行った。国立歴史民俗博物館に加え新たに独立行政				
「東ユーラシア東辺における古代食	①土器のコゲに関する分析		法人文化財機構奈良文化財研究所とも共同研究を行い、西大寺食堂院跡出土の遺物に				
の多角的視点による解明とその栄養	②モデル土器での実験		ついて土器の化学分析も加えて共同研究を行った。それに関して令和5年3月に「西				
価からみた疾病」(令和6年度まで)	③国内調査		大寺食堂院シンポジウム」を開催して、全国に成果報告を公表した。				
の研究を通して、古代食研究の成果を			令和5年3月に吉川弘文館からその成果報告書として、『古代寺院の食事を再現する』				
今後学術雑誌やシンポジウムなどで			を刊行した。				
報告する。							
「評価指標」	「評価指標」						
・共同研究等の取組状況	・共同研究等の取組状況						
〇医療保健学部医療情報学科							
【計画 12−1】⑦							
Socity5.0 に基づくヘルスケア情報							
人材像を確立し、高等学校、実習先、							
就職先・進学先など社会におけるステ							
ークホルダーからの信頼を勝ち取る。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 12-1】						
Socity5,0におけるヘルスケア人材		Ш	 1. 学科教員および有識者に執筆を依頼し、原稿の収集は 9 割程度終了した。校正作業				
像やその背景の書籍化及びカリキュ			を進めており、令和5年度前期中に出版予定である。				
	2. カリキュラムの見直し・実装。		2. カリキュラムの見直しを行い、学生の多様性に対応できるように選択科目を多く配				
「評価指標」	「評価指標」		置する。令和5年度年度入学生より、新カリキュラムを実施する。				
・入学定員に占める学生の割合 100%			・令和5年度の入学定員に占める学生の割合は60%で、目標不達となった。学生募集				
・実習先の実習系科目における肯定			部主体から、学科教員、世田谷事務部が一体となって、募集活動に取り組む体制に再				
的な指導者評価 75%超	的な指導者評価 75%超		構築を行っている。				
・就職先における肯定的な上司評価			・病院実習における肯定的な指導者評価は 100%であり、今後もこれを継続したい。				
75%超	75%超		就職先における上司評価は、新型コロナウイルス感染症による面会制限もあり、令和				
	- ///		4年度は調査が行えていない。令和5年度中に実施できるよう検討したい。				
【計画 12-2】 🍞							
本第二 12 22 ジ 卒業生への生涯学習支援として、卒業							
後の資格試験取得に向けた学習サポ							
。 一トを実施する。							

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
「計画達成のための方策」	【年度計画 12-2】						
卒業生向けの医療情報技師等の資格	就職先企業向け資格試験対策講座の	П	・卒業生の就職先企業における資格取得講座を継続し、12 名の若手社員(本学以外の				
試験講座を開講する。	より効果的な実施方法を検討する。		卒業者も含む)は受験し、6名が合格または科目合格した。新型コロナウイルス感染				
「評価指標」	「評価指標」		症の影響もあり対象拡大できていないが、より多くの卒業生に還元できるよう方法等				
卒業後3年以内の推奨資格(医療情	卒業後3年以内の推奨資格(医療情		の見直しを行っていきたい。				
報技師等)取得者 15 名以上	報技師等)取得者 15 名以上						
【計画 12-3】 🍞							
紀要・学会誌への投稿を推進する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 12-3】						
紀要・学会誌への投稿がスムーズにで	英語論文を1本以上投稿する。	П	・国際会議抄録(Proceedings)の掲載実績はあったものの、英語論文(Paper)の掲載実				
きるための問題点を抽出し、今後のア			績はみられなかった。なお、医学中央雑誌における令和4年度の一人あたり記事数は				
クションとスケジュールを決定する。			0.81 本/人であり、大学全体の 0.77 本/人よりは若干高いものの、十分とはいえない				
「評価指標」	「評価指標」		ので改善を図っていく。				
・学科全体として、英語論文を3本/	・英語論文の投稿状況						
年以上公表							
○東が丘看護学部							
【計画 13-1】 🍞							
全領域で「自ら考え判断し行動できる							
自律した看護師」の育成を目指し、学							
生が主体性を発揮できる学習活動(ア							
クティブラーニング)を取り入れた授							
業(講義・演習)を実施(導入・継続)							
する。							
また、"tomorrow's Nurse"が目指							
す看護実践能力の基盤となる知識・技							
術の修得に向けて、毎年 20%ずつの							
寅習科目の内容・方法を検討し、令和							
3 年度には全ての演習科目の見直し							
を行う。							
「計画達成のための方策」	【年度計 13-1】						
	1. 各領域の特性や各科目の学習目標	IV	1. 全領域でアクティブラーニングを取り入れた授業(講義・演習)に取り組み、そ				
つ以上決定し、それに対する行動計	に合わせ、アクティブラーニングを取		の達成状況はほぼ 100%であった。また、全領域の計画・実施・評価に関する資料(全				
画および実施・評価を報告する。令和	り入れた効果的な授業計画・展開す		4ページ)を作成し、全領域で共有した。以上2点から、今年度の取り組みは達成率				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
8年度までには全領域、全科目におい	る。また、各領域で実施しているアク		100%とした。				
て検討する。	ティブラーニングに関する情報を共	IV	2. 全領域で演習科目および技術項目を決定し、方法・内容を見直しに取り組み、そ				
2. 領域間で情報を共有し、看護過程展	有する。		の達成状況はほぼ 100%であった。また、全領域の計画・実施・評価に関する資料(全				
開の事例や看護技術項目等の効果的	2. 看護実践能力の基盤となる知識・技		4ページ)を作成し、全領域で共有した。今年度は看護過程の展開事例について情報				
かつ効率的な配置に関する検討を毎	術の修得に向け、各領域で年度内で検		交換を行った。以上 2 点から、今年度の取り組みは達成率 100%とした。				
年1回ずつ行い、令和8年度の完了を	討する演習科目および技術項目を決						
目指す。	定し、演習内容・方法を見直す。また、						
	各領域での検討内容をカリキュラム						
	委員会で共有し、全体での調整を図						
	る。						
「評価指標」	「評価指標」						
・アクティブラーニングを取り入れ	・アクティブラーニングを取り入れ						
た授業(講義・演習)の実施状況及び	た授業(講義・演習)の実施状況及び						
演習科目の見直し状況	演習科目の見直し状況						
【計画 13-2】⑦							
ボランティア活動やボランティアサ							
ークルが定着し、4年間を通じて学生							
一人が最低 1 回はボランティア活動							
に参加する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 13-2】						
1. 学友会や学生サークルと連携し、	1. 学友会や学生サークルと連携し、学	IV	1.2.3.4.コロナ禍の影響を引き続き受けており、登校制限や学生サークルの活動の自				
学生のリクルートを積極的に行う。	生のリクルートを積極的に行う。		粛がみられた。また、コンタクトグループの活動も ICT によるミーティングのため、				
2. コンタクトグループの前後に学生	2. コンタクトグループの前後に学生		参加率も低下していた。				
に連絡を行い、情報を周知する。	に連絡を行い、情報を周知する。		しかし、今年度より、目黒区との地域連携を推進するため 10 月 9 日(日) に開催され				
3. 学生サークルの活動が円滑に行え	3. 学生サークルの活動が円滑に行え		た「第46回目黒区民まつり」に学生ボランティアを10名派遣した。				
るようにサポートする。	るようにサポートする。		また、東京医療センター主催の災害訓練に 80 名のボランティア学生を派遣し、さら				
4. ボランティア活動・ボランティアサ	4. ボランティア活動・ボランティアサ		に目黒区消防団に 135 名登録しており、約 450 名の東が丘看護学部の学生が 4 年間で				
ークルの推進について、学友会と連携	ークルの推進について、学友会と連携		最低 1 回のボランティア活動に参加するという目標は達成できていると考えられる。				
を取り支援していく。	を取り支援していく。		今後は年度計画を遂行していくと共に、新規で参加する学生やボランティア活動を増				
「評価指標」	「評価指標」		やしていきたい。				
	 ・各種ボランティア活動の参加状況						

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
〇立川看護学部							
【計画 14-1】 🍞							
立川看護学部の「地域から信頼され							
る看護師の育成」を基本とし、新カ							
リキュラムの導入により、高い実践							
力と判断力を身に着けた看護師の育							
成を目指し、学生が主体的に学ぶこ							
とができるよう、講義・演習・実習							
を連動させ、これまでの学修成果を							
見直し、新たな教育手法の導入と改							
善および教育環境を整備する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 14-1】						
1. 新カリキュラムの導入、及び各領域	1. アクティブラーニングの導入・I C	Ш	1. 全科目についてアクティブラーニング (AL) の実施状況について調査を行い、実施				
の特性や学習目標に合わせた教育手	Tの活用等について、全科目(104 科		率は95%で、82%の科目で複数の AL が実施されていた。これらの結果を踏まえ、全				
法を用い、学生が主体的に学ぶことが	目)の 20~25%の見直しを行う。		教員参加による FD を開催、AL に関する情報共有とディスカッションを行った。AL に				
できる教育環境を整え、効果的な授業	2. 看護技術の修得度を高める		関しては、現状の把握と課題抽出ができたことから評価する。				
を展開する。また、学習成果を可視化	学年ごと、各領域で看護技術の達成	IV	2. 卒業時の看護技術の到達度については、実習検討委員会で分析を行っており、習得				
し、授業内容の改善を図る。	度を評価し、情報を共有する(年度計		状況については情報を共有した。また、各領域で技術経験表にある技術項目を学習す				
2. 看護技術項目(令和 4 年度から導	画-5 に記載)		るかの確認を行った。講義・演習・実習により、項目ごとの到達度を評価する時期と、				
入) の各演習・実習での修得度を評価	3. 災害看護学コースの教育内容の充		技術項目の表記が新カリから変更しており、到達度の評価が適切かどうかを確認する				
し、卒後時点での看護技術の修得度を	実を図る。		ことも今後の課題である。				
高める。		Ш	3. 令和2年カリキュラムから、災害看護学に関し、必修科目5科目・8単位となって				
3. 副専攻「災害看護学コース」の教育			いる。災害看護学の科目担当者と、これまでの学修成果について検討を行った。学年				
を 1 年次から 4 年次まで系統的に実			進行に伴い、災害看護学 I ~ IIで段階的に実践力を高めるものとなっているが、授業				
施、また、災害医療センターと連携し			内容に重なりがあること、また、総合的な災害に対応する実践力の強化のための知識・				
教育内容の充実を図る。さらに、地域			技術および地域を見据えた防災・減災の学習が必要であるとの課題が明らかになっ				
と協働した避難訓練参加などの学習			<i>t</i> =。				
の機会(地域貢献・ボラティア)をも							
つ。							
「評価指標」	「評価指標」						
・新カリキュラムの導入状況	・新カリキュラムの導入状況						
・看護技術項目の習得状況	・看護技術項目の習得状況						
・災害看護学コースの教育内容充実	・災害看護学コースの教育内容充実						
状況	状況						

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
【計画 14-2】⑦							
学生の国家試験対策や就職支援を強							
化するとともに、卒業後の支援体制を							
構築する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 14-2】						
1.看護師国家試験合格 100%をめざ	1. 看護師国家試験合格 100%をめざ	Ш	1. 自己採点結果での判断ではあるが、必須問題はクリアしているが、一般状況設定問				
す。	す。		題の合格ラインが 64%以上なら 1 名不合格となる。受験勉強していない学生が親の				
2.8月末までに就職内定90%以上(進	2.8月末までに就職内定90%以上(進		勧めで受験をし、56%しか取れていない。				
学希望者を除く)、卒業時就職・進学	学希望者を除く)、卒業時就職・進学	Ш	2.100%就職の内定は頂いたが、卒業前に看護師以外の道を選ぶ学生が出てきたため				
率 100%をめざす。	率 100%をめざす。		評価を引き下げた。				
3.卒業後の支援体制を構築する。	3. 卒業後の支援体制を構築する。	I	3. 卒業生のメールアドレスを作成中であるがまだ、3 割程度である。更に、就職先も				
「評価指標」	「評価指標」		変更している状況であり。連絡先の確保ができていないが、卒業生に演習指導の協力				
• 看護師国家試験合格状況	· 看護師国家試験合格状況		が得られ、本人たちからも「今後も協力したい」いう要望が聞かれた。				
• 就職内定状況	· 就職内定状況		・次年度は、連絡先が分かる学生からホームカミングを実施していけるように計画立				
・卒業後の支援体制の構築状況	・卒業後の支援体制の構築状況		案する。				
【計画 14-3】 🍞							
立川看護学部の学生支援を充実させ							
る。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 14-3】						
	1. コンタクト・グループミーティング	Ш	1. 前期は全学年 80%以上の参加率であったが、後期は 4 年生の参加率が低下して				
	の出席率を各学年 80%以上に維持す		いたため評価を引き下げた。				
る。	る。	П	2.3年ぶりに新入生研修が行われたが、今回は学生支援センターが企画運営し、学部				
2. 新入生合宿研修での学科プログラ	2. 新入生合宿研修での学科プログラ		(学科)では企画運営に関与していない。				
ムの企画運営を効果的に行い、参加学	ムの企画運営を効果的に行い、参加学		・新入生研修の運営方法の変更に合わせ、計画内容の見直しが必要である。				
生の満足度を80%以上にする。	生の満足度を80%以上にする。	IV	3.3 年ぶりに令和4年11月5日、6日に医愛祭が行われ、学部(学科)企画を行っ				
3. 医愛祭での立川看護学部の企画イ	3. 医愛祭での立川看護学部の企画イ		た。両日とも80名以上の来場者があり、災害に関しての認識ができた等の意見が多				
ベントで地域に貢献する。両日80名	ベントで地域に貢献する。両日 80 名		かった。				
以上の来場者を確保するとともに、学	以上の来場者を確保するとともに、学	IV	4. 事務部を通して、立川市、立川警察署、日赤等のボランティア募集のアナウンスが				
生ボランティア 10 名以上を確保す	生ボランティア 10 名以上を確保す		できた。				
る。	る。		・学生の各種ボランティアへの参加は増加しているが、個別には現状が把握しきれて				
4. ボランティア活動参加の活性化を	4. ボランティア活動参加の活性化を		いないため、今後は学生のボランティア参加経験についての現状把握を行う。				
図る。	図る。		・老人保健施設でのボランティア募集に際し、学生のボランティアの参加応募があっ				
	・ボランティア活動に関する情報提		<i>t</i> =。				
	│ │供を年3回以上行う。						

第3期中期計画	 令和 4 年度計画		令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議
先り 朔中朔 計画	│	評価	7和4	評価	日日总快、計画安良云	評価	内即具体证推進去議
	4	区分		区分		区分	
	・4年間を通じて学生一人が最低1回						
	はボランティア活動に参加する。						
	・医療機関や老人保健施設などにお						
	ける学生ボランティアの参加や病院						
	でのコンサートへの参加協力など) 						
	を、年に1回以上行う。						
「評価指標」	「評価指標」						
・コンタクト・グループミーティング	・コンタクト・グループミーティング						
の出席状況	の出席状況						
・新入生合宿研修の満足度	・新入生合宿研修の満足度						
・医愛祭での来場者、学生ボランティ	・医愛祭での来場者、学生ボランティ						
ア数	ア数						
・ボランティア活動の参加状況	・ボランティア活動の参加状況						
【計画 14-4】⑦							
実習施設と大学の連携を図り、より良							
い実習環境を整備した上で、看護師教							
育の技術項目に対する卒業時の到達							
度の達成に向けた指導の実施や、質の							
高い看護教育の実現に向けて大学・実							
習施設で共同研究を実施する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 14-4】						
1. 実習施設と大学で実習に関する情	 1. 看護学実習施設に対する説明会の	IV	1.6月23日(木)に各実習施設と立川キャンパスで対面・オンラインのハイブリット				
報や課題を共有し、課題解決や教育効	実施。(1回/年)		形式にて開催した。全体会として 2021 年度の実習実施報告、臨地実習実施上の工夫				
果向上に向けた検討の機会を持つ。	 2. 看護学実習連携会議の実施。(1 回/		や課題について説明し、20施設(来校5施設)から48名の実習担当者が出席した。				
2. 臨床指導者と大学教員とさらなる	年)	IV	2.12月12日(月)に主たる実習施設と連携会議をハイブリッド形式で実施した。教				
連携を図り、看護学実習の目的・目標	 3. 技術経験表の学生の到達度調査及		員と実習施設の実習担当者と実習指導に関するディスカッションを行い、交流も図る				
に沿った教育効果の高い実習を行え	び内容の検討。		ことができた。				
るよう実習環境や指導体制について	・東が丘・立川看護学部看護学科災害	IV	3.4年次生に調査を実施した。到達度60%未満の項目は、178項目中8項目(4.5%)。				
検討する。	 看護学コース 4 年次生の看護技術卒		感染対策上、留意が必要な技術項目(食事、排泄等)の到達は前年度と同様に到達度				
3. 看護技術経験表の集計、到達度が未	 業時到達度達成の到達度 60%以上の		が低かった。到達度の低い項目について各領域で到達に向けて検討することになっ				
達成(60%未満)の項目について委員会	 項目が 90%以上。		た。				
で対策を検討する。また、学生の到達		IV	 4. 第 42 回日本看護科学学会学術集会にて「看護系大学と連携実習施設との看護実践				
度評価について教員間で共有し、実習			力を育むシームレスな教育のあり方」について実習施設と共同で交流集会を開催し				
指導に活かす。	4. 大学・実習施設と実習指導に関連す		た。シームレスな卒後教育を見据えた看護技術教育に関する基礎的研究について成果				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
4. 大学・実習施設で看護教育に関する	る共同研究。		発表(口演・示説)を行った。				
共同研究を実施し、学術集会で成果発	・大学と実習施設による共同研究の	I	5. 今年度は臨地での実習ができたため、学内実習のための教材作成には至らなかっ				
表を行う。	実施。(1回以上/年)		た。来年度以降に臨地実習が可能になれば、学内実習のための教材作成に取り組みた				
	・学術集会での成果発表。(1回以上/		い。また、VRを利用した教材作りも行う予定である。				
	年)						
	5. 学内実習のためのシミュレーショ						
	ン教材作りにむけた検討。						
「評価指標」	「評価指標」						
看護学実習施設に対する説明会の	・看護学実習施設に対する説明会の						
実施状況	実施状況						
看護学実習連携会議の実施状況	・看護学実習連携会議の実施状況						
・技術経験表の学生の到達度調査及	・技術経験表の学生の到達度調査及						
び内容の検討状況	び内容の検討状況						
・大学・実習施設と実習指導に関連す	・大学・実習施設と実習指導に関連す						
る共同研究状況	る共同研究状況						
【計画 14-5】⑦							
立川市消防団機能別分団(立川市学生							
消防団)活動の活性化を図ることによ							
り、立川市民の安全・安心を護るとと							
もに学生団員自らの災害医療に対す							
る知識と技能、意欲を育成する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 14-5】						
1. 新入生オリエンテーション等の機	立川市消防団機能別分団(立川市学生	IV	1.471 名の内、151 名(32.1%)が消防団に所属していることから全学部生の 30%以				
会を利用して、大学の社会貢献活動の	消防団)活動の活性化。		上の加入を満たしている。				
重要性を丁寧かつ適切に伝え、学生が	1. 立川市学生消防団に所属する学生	Ш	2. 概ね各訓練・行事への出席率は30%以上を満たしているが、今年度の出初式(1月				
主体性を持って入団することを第一	数。全学部生の 30%以上加入		8日開催)については、成人式に出席する団員が複数いたことから出席率が30%未達				
とする。また、活動の様子を広くPR	2. 立川市学生消防団における主な訓		だった。				
し、社会的に認知されていることを入	練・行事への出席。平均出席率コロナ	IV	3. 応募期間内に立川市が設けている規定参加枠(60名程度)の人数を満たした。				
団の意識付け材料とする。	禍:約30%以上、ポストコロナ:約50%						
2. 訓練・行事への出席率向上につい	以上						
 て、消防団員は『公務員』であるとい	3. 上級救命講習を受講し、上級救命技						
う自覚と責任感を入念するとともに、	能認定証の交付を受ける学生消防団						
地域の担い手として地域住民と接す							
ることを説明して出席に対するモチ							

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会講
		区分		区分		区分	
ベーションアップに繋げる。また、各							
種訓練等の日程を予め立川市と調整							
し、学業に支障のないスケジュールを							
設定する。							
3. 上級救命講習の受講について、							
上級救命講習の概要及び学生消防団							
にとっての必要性と有効性を説明す							
る。							
「評価指標」	「評価指標」						
・立川市学生消防団に所属する学生	・立川市学生消防団に所属する学生						
数	数						
・立川市学生消防団における主な訓	・立川市学生消防団における主な訓						
練・行事への出席状況	練・行事への出席状況						
・上級救命講習を受講し上級救命技	・上級救命講習を受講し上級救命技						
能認定証の交付を受ける学生消防団	能認定証の交付を受ける学生消防団						
員の状況	員の状況						
【計画 14-6】 🍞							
立川看護学部が目指す看護師像を情							
報発信するとともに、立川看護学部の							
人的リソースによる魅力あるオープ							
ンキャンパス、個別見学会等を企画・							
運営し、参加高校生の満足度を向上さ							
せる。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 14-6】						
1. 学生募集部と協働し、広報企画参加	 1. 来校型・WEB 型による、オープン・	IV	1. オープン・ミニオープンキャンパスを合わせて3回開催した。そのうち2回が来校				
者の満足度とニーズに関する量的、質	ミニオープンキャンパスの開催。		型と WEB 型のハイブリッド、1 回が来校型単独であった。来校型の参加者は年間計約				
的データを収集できるアンケートを	・オープン・ミニオープンキャンパス		700 人であった。実施後参加者アンケートにでは回答者のほとんどが満足と答えた。				
作成し、実施する。	の開催数。3回	IV	2. 個別見学会を来校型学科説明会に機能拡大して開催し、これを含めて学科説明会を				
2. 広報企画参加者アンケートの結果	・オープン・ミニオープンキャンパス		計 5 回、入試説明会を 1 回開催した。これらへの参加者は年間約 300 人であった。参				
を検討して次のオープンキャンパス、	参加者。満足度 70%以上		加者アンケートにでは回答者のほとんどが実施後アンケートにでは回答者のほとん				
ミニオープンキャンパス、個別見学	 2. 来校型による、個別見学会の開催。		どが満足と答えた。				
会、入試説明会、大学案内パンフレッ	 ・個別見学会の開催数。3 回以上	IV	3. 来校型学校推薦型入試説明会 1 回、WEB 型の高校教員対象大学説明会 1 回、全学部				
トなどの内容を検討する。	│ ・個別見学会の参加者。満足度 70%		対象一般選抜入試説明会 1 回を開催した。参加者アンケートにでは回答者のほとんど				
3. 在校生、教員、事務部職員などの人	 以上		│ │ が実施後アンケートにでは回答者のほとんどが満足と答えた。				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
りリソースを活用した、参加者に近い	3. 来校型・WEB 型による、入試説明会	IV	4. 出張講座を計5回行った。対象高校の希望で実施後アンケートは行わなかった。し				
感覚の学生メッセージ、学生と両親が	の実施。		かし、どの回も受講高校生の反応はとても良く、毎回の質問なども活発で、拍手など				
関心を持てる学部紹介とキャンパス	·入試説明会開催数3回以上		も盛んに受けた。これらのことから参加者満足度は 70%以上と判断した。				
ソアー、大学の授業内容に触れる学科	·入試説明会参加者。満足度 70%以						
È画プログラム、模擬講義、学生や教	上						
員によるフランクで楽しい各種プレ	4. 出張講座の実施。						
ゼンテーションなどを企画運営する。	・出張講座開催数。1 回以上						
	・出張講座参加者。満足度 70%						
「評価指標」	「評価指標」						
・来校型・WEB 型による、オープン・	・来校型・WEB 型による、オープン・						
ミニオープンキャンパスの開催状況	ミニオープンキャンパスの開催状況						
・来校型による、個別見学会の開催状	・来校型による、個別見学会の開催状						
兄	況						
・来校型・WEB 型による入試説明会の	・来校型・WEB型による入試説明会の						
実施状況	実施状況						
・出張講座の実施状況	・出張講座の実施状況						
【計画 14-7】 🥏							
学生・教職員の研究推進のため、図書							
室の利用促進を図る。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 14-7】						
図書室の申し込みの手続きを利用者	1. ILL 申し込み人数が令和3年度前期	Ш	1.図書館月次報告では達成率が 76%であった。昨今は無料 PDF 公開も多くなってい				
D利便性に配慮して、簡便な方法に改	は 67 件(2~29 件/月)を 1.25 倍の		ることも要因である。さらに学生は、図書館から文献依頼ができることをしらない学				
善するとともに、文献利用を促すため	83 件を目指し、年間 166 件をめざす。		生もいるため、文献依頼の方法を周知していくことが課題である。				
DPRを定期的に発信する。また積極	2. 立川図書館の貸し出し冊数(図書及	IV	2.2 月末の時点で 19%増の 4195 冊を達成した。図書の貸し出し数は増加しており、				
りな利用を推進するため、利用者の関	び雑誌) は令和 2 年度 3,523 冊であ		講義や演習、その他国家試験対策等で図書館の利用を促していることが要因と考え				
♪が高まるような新刊図書の PR を行	り、令和4年度もコロナ禍が継続して		వ .				
うとともに、文献貸出を促すためのP	いることから昨年度より 2%増の						
Rを定期的に発信する。	3,594 冊(71 増)をめざす。						
「評価指標」	「評価指標」						
・ILL 申し込み人数の状況	・ILL 申し込み人数の状況						
・立川図書館の貸し出し状況	・立川図書館の貸し出し状況						

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
〇千葉看護学部							
【計画 15-1】							
未来に向けた主体性を涵養する教育							
を推進する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 15-1】						
1. 主体的に学修できる仕組みと環境	1. 主体的に学修できる仕組みと環境	Ш	1. (1)				
を整備する。	を整備する。		・令和5年度からのLMSを用いた学修ポートフォリオの導入に向け、検討を行った。				
(1) 学生がビジョンに照らして自己評	(1)①LMSを用いた学修ポートフォ		また、学生に対して具体的な履修につながる学年別ガイダンスを定期的に実施した。				
価できるプログラムとしてポートフ	リオの具体的な計画の検討と部分的		ポートフォリオの試行とガイダンスについては新年度に年2回程度行う計画とした。				
ォリオを導入し、効果的に運用される	な試行を開始する。		・各学年、各セメスター開始時、終了時に履修ガイダンス・履修指導を行ったほか、				
よう仕組みを整備する。	②学生に対して定期的にガイダンス		1年生には定期試験に向けたガイダンスを追加で行った。				
	を実施し、具体的な履修につながるよ						
	うにする。						
「評価指標」	「評価指標」						
・ポートフォリオシステムの整備状	・ポートフォリオシステムに関する						
況、学年別ガイダンスの実施状況、ビ	検討会(2回)、学年別ガイダンスの実						
ジョンについてのポートフォリオの	施状況						
記録回数・実施人数							
(2) 早期から看護職としての意識を高	(2)①講演会やイベント、ボランティ	Ш	1. (2)				
めるため、1年前期から看護の現場で	ア募集に関して定期的に情報提供を		・教員からの講演会やイベントの案内は9回(学内1、学外8)であり、その他学会				
の演習を実施すると共に、授業内外	行う。		やイベント等のチラシの掲示が行われており、十分に行われたと考える。参加者数に				
で、看護職や人々の健康に関する講演	②外部の保健医療福祉関係者の授業		ついては、学内の地域交流イベントに20名、大学で取りまとめた災害訓練は32名で				
会・イベント等の参加機会を提供する	の実施状況(特に低学年)を確認		あったが、それ以外は任意参加としており数の把握はできていない。				
など、アーリー・エクスポージャーの	し、次年度に反映させる。		・学部の保健医療福祉関係者の授業は1年生14回、2年生8回、3年生4回、4年生				
プログラムを行う。	③これまでのプログラムを継続し学		1回の計27回、加えてJCHO船橋中央病院の医師らによる疾病や治療に関する講義が				
	生及び教員からの評価調査を実施す		上記分を除き 67 回実施されており、十分に行われている。				
	る 。		・令和4年度は、4年間のカリキュラム全体を通して、4年次生にDPに照らした評価				
「評価指標」	「評価指標」		調査と学習環境に関する評価調査を行ったが、1, 2, 3年次生や教員への評価調査は				
・学外の看護・医療保健福祉関係者等	・学外の看護・医療保健福祉関係者等		行っていない。				
による授業回数、看護学概論の授業評	による授業回数 (1回/各学年)、看護		・次年度以降は、評価調査を実施する予定である				
価、授業外での看護・医療保健福祉関	学概論の授業評価(肯定的評価が7割						
係者等による講演会・イベント等の案	以上)、授業外での看護・医療保健福						
内回数、参加人数、学生ボランティア	祉関係者等による講演会・イベント等						
の割合、情報提供の頻度	の案内回数(1回)・参加人数(5人/						

第3期中期計画	~ 令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		評価 区分		評恤 区分		評価	1 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	 回)、学生ボランティアの割合(5人/	-/-		-/-		-/3	
	回)、情報提供の頻度(3回)						
③ 自ら学修に取り組む意義と方法と	(3)①遠隔利用も含めた図書館リソー	Ш	1. (3)				
の獲得をめざして、主体的な学修資源	スの活用が増加する。		・入館延べ人数は前年比 122%、学部学生、大学院生の資料貸出延べ数は前年比 161%				
としての、図書館利用の促進、スタデ	②図書館の利用促進にむけたオリエ		であった(令和5年2月末時点)。				
ィスキルズに関する教材の提供、国家	│ │ ンテーション・企画・情報発信を行う。		・学部4年生科目「看護研究」の希望領域を対象に、文献検索ガイダンスを実施した。				
試験合格に向けて計画的・主体的に取	③授業及び入学前準備プログラム等		・スタディスキルズ動画 4 本を作成・配信したが、アクセス数 100 にとどまった。ま				
り組むことが出来るような低学年時	を通じて、学生のスタディスキルズの		た、1 年生科目担当者からは、スタディスキルズに関する質問への個別対応件数が多				
からのガイダンスや学修環境整備を	獲得を支援する。		いという情報もあった。次年度は、学生が当該スキルを要すタイミングで、科目担当				
行う。	④国家試験合格に向けて計画的・主体		者より動画視聴を促して頂くよう、FD報告会で教員に向けて動画内容を紹介した。				
	的に取り組むことが出来るよう、ガイ		・4 年生には国家試験関連ガイダンス等 6 回、模試 6 回、有料講座 I, II、講座等を				
	ダンスの実施、国家試験関係情報の発		実施した、任意有料講座受講者 103 人/104 人(昨年 81 人/105 人)となった。自己学				
	信、学修進度に応じた模擬試験や講座		習室も 105 学生ホールを開放し、感染予防を行いながら、毎日複数の学生が利用して				
	の開催、自主学習室の確保等を行う。		いた。3,2年生は任意受験模試を実施したが、2年生は100%受験、3年生は1人の				
			ぞき全員が受験した。				
「評価指標」	「評価指標」						
・図書館入館数、貸出数、スタディス	・令和3年度に比べ、図書館における						
キルズに関する教材の視聴率、国家試	入館数、貸出数、スタディスキルズに						
験合格への取り組みの実施状況及び	関する教材視聴率の増加状況						
対策参加状況	・国家試験対策支援に学生の半数以						
	上参加						
2. 入学試験合格者に対する学修支援	2. 入学試験合格者に対する学修支援	Ш	2. 総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学予定者 63 人を対象とした入学前準備プ				
を入学前に開始する。	を入学前に開始する。		ログラムを永続実施した。「大学での学修を知ろう part2 (対面)」は、53 人が参加し				
入学前からの学修に対する主体性涵	①前年度までの入学前準備プログラ		た。協力学生からは入学予定者の質問に応えることができたという評価をもらった。				
養をめざし、主として推薦試験による	ムを継続実施する。		・令和 4 年度入学生の入学後のアンケート結果では、対象者 60 人おなかで、不参加				
入学生を対象に、入学前準備プログラ	②入学後に該当者に対しアンケート		者38名。不参加理由は日時が合わなかった(28名)であった。				
ムを構築・実施する。	を行い評価・改善をはかる。		令和5年度入学生対象の日程は、卒業式がる3月を避け、祭日としたところ53名/63				
	③入学前プログラム受講者の入学後		名の参加となった。令和5年度入学予定者対象アンケートは令和5年度4月に行う予				
	の経過を追跡し、学生に対する主体性		定である。				
	の獲得状況を評価する。		・また、総合型選抜による入学予定者 17 人の内、地域交流イベントに 11 人が参加し				
「評価指標」	「評価指標」		<i>t</i> =.				
・入学前準備プロジェクトの参加者	・令和3年度比、入学前準備プロジェ		・入学前準備プログラム受講者への入学後の主体性獲得状況調査は行うことができ				
数、参加者への入学後アンケート調査	 クトの参加者数 5%増加		なかった実施についての検討を継続する。				

3. 中生の主体的に手が裏談と方法の (編巻を支東する編金として、投東は外 での学報機会の間代や学報が創を支 関する。 変・指力の関係に関わる場合、観訳 でのの教機会の間代や学報が創を支 関する。 ではの関係に関わる場合、観訳 で、これまで中生が参加している役割 関連イベントへの参加機会、対力が 関連イントへの参加機会、対力が に、大・行ものが影響機会を動いです の	プラムに対する肯定的な評価 推持 の主体的に学ぶ意欲と方法の を援する機会として、授業以外 を機会の提供や学修活動を支 まで学生が参加している授業 の学修機会を調査し、課題を洗 に提供できる機会を探索し、情 や参加支援方法、参加後の発表 方法等を検討する。		は、医愛祭と地域交流イベントだった。医愛祭には2日半で述べ29名、地域交流イベントには1日で64名の学生が参加した。課題は、コロナ禍における活動や参加の制約(実習による)が最も大きいと考えらえた。②地域交流イベントの参加学生数は昨年度より減少したが、子どもを対象とした2つの新企画に学年を超えて学生が参加	区分		区分	
□ 学生の主体的に学力書談と方法の □ 学生の主体的に学ぶ書談と方法の □ 学生の支持的に学ぶ書談と方法の □ 学生の支持の世界の登場と □ での学術を全の世界の学術の主な □ でいます。 「学術の書」 □ でいます。 「学術の書」 □ がいます。 「学術の書」 □ がいます。 「学術の書」 □ がいます。 「学術の書」 □ 大きを大きをいます。 「学術の書」 □ 大きを大きをいます。 「学術の書」 □ 大きを大きをいます。 「学術の書」 □ 大きを大きをいます。 「学術の書」 □ 大きを大きをできた。 「学術の書」 □ 大きを大きを大きを大きを大きを大きを大きを大きを大きを大きを大きを大きを大きを大	推持 の主体的に学ぶ意欲と方法の 支援する機会として、授業以外 多機会の提供や学修活動を支 まで学生が参加している授業 の学修機会を調査し、課題を洗 に提供できる機会を探索し、情 や参加支援方法、参加後の発表 方法等を検討する。	Ш	は、医愛祭と地域交流イベントだった。医愛祭には2日半で述べ29名、地域交流イベントには1日で64名の学生が参加した。課題は、コロナ禍における活動や参加の制約(実習による)が最も大きいと考えらえた。②地域交流イベントの参加学生数は昨年度より減少したが、子どもを対象とした2つの新企画に学年を超えて学生が参加				
3. 字生の主体的に学ぶ返を方法の	の主体的に学ぶ意欲と方法の を援する機会として、授業以外 を機会の提供や学修活動を支 まで学生が参加している授業 の学修機会を調査し、課題を洗 に提供できる機会を探索し、情 や参加支援方法、参加後の発表 方法等を検討する。	ш	は、医愛祭と地域交流イベントだった。医愛祭には2日半で述べ29名、地域交流イベントには1日で64名の学生が参加した。課題は、コロナ禍における活動や参加の制約(実習による)が最も大きいと考えらえた。②地域交流イベントの参加学生数は昨年度より減少したが、子どもを対象とした2つの新企画に学年を超えて学生が参加				
議門を支援する機会として、授業助が での予報機の設備や予除が高性で支 版する。	を援する機会として、授業以外 修機会の提供や学修活動を支 まで学生が参加している授業 D学修機会を調査し、課題を洗 に提供できる機会を探索し、情 や参加支援方法、参加後の発表 方法等を検討する。	Ш	は、医愛祭と地域交流イベントだった。医愛祭には2日半で述べ29名、地域交流イベントには1日で64名の学生が参加した。課題は、コロナ禍における活動や参加の制約(実習による)が最も大きいと考えらえた。②地域交流イベントの参加学生数は昨年度より減少したが、子どもを対象とした2つの新企画に学年を超えて学生が参加				
での字格報会の提供や字形高軸を支 選する。 選する。 選する。 選する。 選する。 選する。 選する。 選する。	を機会の提供や学修活動を支 まで学生が参加している授業 D学修機会を調査し、課題を洗 こ提供できる機会を探索し、情 や参加支援方法、参加後の発表 方法等を検討する。		ベントには 1 日で 64 名の学生が参加した。課題は、コロナ禍における活動や参加の制約(実習による)が最も大きいと考えらえた。②地域交流イベントの参加学生数は昨年度より減少したが、子どもを対象とした 2 つの新企画に学年を超えて学生が参加				
接する。	まで学生が参加している授業 D学修機会を調査し、課題を洗 に提供できる機会を探索し、情 や参加支援方法、参加後の発表 方法等を検討する。		制約(実習による)が最も大きいと考えらえた。②地域交流イベントの参加学生数は昨年度より減少したが、子どもを対象とした2つの新企画に学年を超えて学生が参加				
原産・福祉の現場に関わる機会、復成 (別元・本で学生が参加している良業 展達でないとのの動態会、将コンティア・マンテを検索を開産し、過過を表し、過過を表しているの事態を観えて学生が参加 し、 質の交流を促進できた。参加学生による評価は、項目を含め次年度検討する。 「保護・大・大・木の学等機会と投流では、強調を表し、情報と称でも知ると考しているので、学生の表別が実施がありまま。 「保護・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大	まで学生が参加している授業 の学修機会を調査し、課題を洗 に提供できる機会を探索し、情 や参加支援方法、参加後の発表 ち法等を検討する。		昨年度より減少したが、子どもを対象とした2つの新企画に学年を超えて学生が参加				
関連イベントへの参加機会、ボランティア係権会を接着し、課題を洗います。 レンボールでの少等機機会を終すし、経動にできる機会を探索し、情報関係と参加学生を開放させる。 「評価指揮」 ・ 実践された学様機会の放、学生の参加大衆、参加性の多素で開放した。 学校の教育における多様性に対応したとなうを構成し、 おおかま生からのフィードバックの攻災 【計画 15-21	D学修機会を調査し、課題を洗 に提供できる機会を探索し、情 や参加支援方法、参加後の発表 方法等を検討する。						
マ 万	に提供できる機会を探索し、情 ○参加支援方法、参加後の発表 方法等を検討する。		し、縦の交流を促進できた。参加学生による評価は、項目を含め次年度検討する。				
ードバックを受ける機会の放送を行。 い、それぞれの学像機会と参加学生を ・	に提供できる機会を探索し、情 や参加支援方法、参加後の発表 方法等を検討する。		1				
版提供や参加支援方法、参加後の発表 や評価方法等を検討する。 「評価権理」 ・ 令和3 年度比、提供された学修機会 と参加学生の数離持 ・ ・ 令和3 年度比、提供された学修機会 と参加学生の数離持 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	や参加支援方法、参加後の発表 方法等を検討する。						
増加させる。 「評価指揮」 ・特別3年度比、提供された学権機会の数、学生の参 加入数、参加学生からのフィードバックの状況 「計画15-21 学生主体の教育における多様性に対 応した教育を推進する。 「計画確成かための方策」 1. 多様な教育ニーズに対応する。 学生の販売的な学権を行うととした。数 素な登場内の整備を行うととした。数 素な登場内で現れてアウィブラーニングを推進する。その場 合」「6月 A 広ども活用に勤助会が、 20 世上の反応を確認しながら、DX を 表す「6月 A 広ども活用に勤助会が、 20 世上の反応を確認しながら、DX を 最近 15-2	方法等を検討する。						
「評価指揮」 ・提供された学移機会の数、学生の参加人数、参加学生の数額持 ・							
・役員された学様機会の数、学生の参加人数、参加学生の参雑持 1							
加入数、参加学生がらのフィードバックの状況 【計画 15-2】 学生主体の教育における多様性に対 応した教育を推進する。 「計画連成のための方策」 1、多様な教育ニーズに対応する。 学生の能動的な学修を促すために必要な資機材の整備を行うとともに、教育内容や方法を教員間で共有しアクティブラーニングを推進する。 (学生の反応を確認しながら、DIX を 1. の果然を取引したが、DIX を 1. の果然を取引したが、DIX に 1. の以口・19への対応の継続及び DIX 化が推進され、ほぼずべての科目で LIMS が利用されるなど学部内での ICT の利活用等はほぼ浸透したといえる。また、「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業(令和3 年度補正)」により多目的 DIX ルームを整備し、これらの設備の説明象、総強会も各 1 回開催されるなど、アクティブラーニングを推進する。その場 合き、「G PA なども活用して動物表質が 2. 世界したアクティブラーニングを構造する。その場 自会中心に、基極に導入する。 確及び発展的な内容の提示や電熱度 3. 上記の他、各科目において、学生の コーズを把握し可能な範囲で対応する。 「成了 PA なども活用して動物表質が 2. 世界したアクティブラーニングを構成の整備も進んだ。	旨標」						
② (3年度比、提供された学修機会						
学生主体の教育における多様性に対応した教育を推進する。 「計画連成のための方策」 1. 多様な教育ニーズに対応する。 学生の能動的な学体を促すために必要な資機材の整備を行うとともに、教育内容や方法を教員間で共有しアクライブラーニングを推進する。ので、企学生の庭応を確認しながら、DXを含みては、DX とので、基別して、DX とので、基別して、DX とので、基別して、DX とので、基別して、DX に関するとの対応の組織及びDX 化が推進され、ほぼすべての科目で LMS が利用されるなど、アクティブラーニングを推進する。その場合、F G P A なども活用し、影動教育が、 E 活用したアクティブラーニングを構造する。その場合、	学生の数維持						
学生主体の教育における多様性に対応した教育を推進する。 「計画選成のための方策」 1. 多様な教育ニーズに対応する。 学生の能動的な学修を促すために必 要な資機材の整備を行うとともに、教育方に変したがら、DXを育してプローニングを推進する。その場合、f G P A なども活用し常動教員が 担当する講義・演習科目を中心に、基礎のに導入する。 ②力に導入する。 ②力に関わらず、全科目で双方向 を表しています。 のの対応の機様及びDX 化が推進され、ほぼすべての科目で LMS が利用されるなどを静めて DX ルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各 1 回開催されるなど、アクティブラーニングを推進する。その場合は、表しまして、ましまして、表しまなないで、表しまして、表しまして、表しまして、表しまして、表しまなないで、表しまして、表しまなないで、ままなないで、表しまなないで、ままなないで、まなないで							
応した教育を推進する。							
「計画連成のための方策」							
 1. 多様な教育ニーズに対応する。 学生の能動的な学修を促すために必要な資機材の整備を行うとともに、教育の容や方法を教員間で共有しアクティブラーニングを推進する。その場のでは、毎日にアクティブラーニングを推進する。その場を活動を表現して、までは、方面によりである。 企学生の反応を確認しながら、DXを活用したアクティブラーニングを積担当する講義・演習科目を中心に、基極的に導入する。 企業形態に関わらず、全科目で双方向 企業を把握し可能な範囲で対応する。 のというの対応の継続及びDX 化が推進され、ほぼすべての科目でLMS が利用されるなど、アクテルのができる医療人材養成事業(令和3年度補正)」により多目的の以ルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各1回開催されるなど、アクティブラーニング環境の整備も進んだ。 のよいの主により、というの表に対応できる医療人材養成事業(令和3年度補正)」により多目のの対応の継続及びDX 化が推進され、ほぼすべての科目でLMS が利用されるなど、アクテルのができる医療人材養成事業(令和3年度補正)」により多目的の以ルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各1回開催されるなど、アクティブラーニング環境の整備も進んだ。 で対しているの表に対応できる医療人材養成事業(令和3年度補正)」により多目的の以ルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各1回開催されるなど、アクティブラーニング環境の整備も進んだ。 で対しているの表に対応できる医療人材養成事業(令和3年度補正)」により多目的の以ルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各1回開催されるなど、アクティブラーニング環境の整備も進んだ。 で対しているの表に対応する。 のよりにより、名称目において、学生のこれでは、表に対応できる医療人材養成事業(令和3年度相正)」により多目的の以ルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各1回開催されるなど、アクティブラーニング環境の整備も進んだ。 で対しているの表により、学生のは、対応できる医療人材養成事業(令和3年度相正)」により多目的の以ルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各1回開催されるなど、アクティブラーニング環境の整備も進んだ。 では、おおいでは、またが、対応できる医療人材養の事業を表しまするといるなど、アクティブラーニング環境の整備も進んだ。 では、などの表によるといるの表に対しているの表には、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、							
学生の能動的な学修を促すために必要な資機材の整備を行うとともに、教育方法を取り入れ、学生の理解を把握表が方法を教員間で共有しアクティブラーニングを推進する。その場合、f G P A なども活用し常勤教員が担当する講義・演習科目を中心に、基礎及び発展的な内容の提示や習熟度別クラスの導入等を行うことにより、授業形態に関わらず、全科目で双方向。	計画 15−2】						
要な資機材の整備を行うとともに、教育人法を取り入れ、学生の理解を把握し成果を評価する。 合、f G P A なども活用し常動教員が 活用したアクティブラーニングを積極的に導入する。 健及び発展的な内容の提示や習熟度 別クラスの導入等を行うことにより、 日一ズを把握し可能な範囲で対応する。 の (3)上記の他、各科目において、学生の 日一ズを把握し可能な範囲で対応する。 の (3)上記の他、各科目において、学生の 日一ズを把握し可能な範囲で対応する。	な教育ニーズに対応する。	IV	1. COVID-19 への対応の継続及び DX 化が推進され、ほぼすべての科目で LMS が利用さ				
育内容や方法を教員間で共有しアク ティブラーニングを推進する。その場 ②学生の反応を確認しながら、DX を 合、f G P A なども活用し常勤教員が 担当する講義・演習科目を中心に、基 礎及び発展的な内容の提示や習熟度 別クラスの導入等を行うことにより、 授業形態に関わらず、全科目で双方向 DX ルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各 1 回開催されるなど、アクティブラーニング環境の整備も進んだ。 DX ルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各 1 回開催されるなど、アクティブラーニング環境の整備も進んだ。 イブラーニング環境の整備も進んだ。 日本の登録の発展的な内容の提示や習熟度 別クラスの導入等を行うことにより、 日本で記述している。 ・ロ関係されるなど、アクティブラーニング環境の整備も進んだ。 日本の登録の説明会、勉強会も各 1 回開催されるなど、アクティブラーニング環境の整備も進んだ。 ・ログラーニング環境の整備も進んだ。 日本の登録の記述を表現している。 ・ログラーニング環境の整備も進んだ。 日本の記述を行うことにより、 日本の記述を表現している。 ・ログラーニング環境の整備も進んだ。 日本の記述を表現している。 ・ログラーニング環境の整備も進んだ。 日本の記述を表現している。 ・ログラーニング環境の整備も進んだ。 日本の記述を表現しているの記述となど、アクティブラーニング環境の整備も進んだ。 ・ログラーニング環境の整備も進んだ。 日本の記述を表現している。 ・ログラーニング環境の整備も進んだ。 日本の記述を表現しているの記述を表	の目標を達成できる各種の授		れるなど学部内での ICT の利活用等はほぼ浸透したといえる。また、「ウィズコロナ				
ティブラーニングを推進する。その場 ②学生の反応を確認しながら、DX を	を取り入れ、学生の理解を把握		 時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業(令和3年度補正)」により多目的				
ティブラーニングを推進する。その場 ②学生の反応を確認しながら、DX を 合、f G P A なども活用し常勤教員が 担当する講義・演習科目を中心に、基 極的に導入する。	を評価する。		DX ルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各 1 回開催されるなど、アクテ				
合、f G P A なども活用し常勤教員が 活用したアクティブラーニングを積 担当する講義・演習科目を中心に、基 極的に導入する。 ②上記の他、各科目において、学生の 別クラスの導入等を行うことにより、 ニーズを把握し可能な範囲で対応す			ィブラーニング環境の整備も進んだ。				
担当する講義・演習科目を中心に、基 極的に導入する。							
礎及び発展的な内容の提示や習熟度③上記の他、各科目において、学生の別クラスの導入等を行うことにより、ニーズを把握し可能な範囲で対応す授業形態に関わらず、全科目で双方向る。							
別クラスの導入等を行うことにより、							
授業形態に関わらず、全科目で双方向る。							
		は教育ニーズに対応する。 D目標を達成できる各種の授を取り入れ、学生の理解を把握を評価する。 D反応を確認しながら、DXを アクティブラーニングを積り入する。 D他、各科目において、学生の	IV D目標を達成できる各種の授 E取り入れ、学生の理解を把握 E評価する。 D反応を確認しながら、DX を Cアクティブラーニングを積 導入する。 D他、各科目において、学生の	IV 1. COVID-19 への対応の継続及び DX 化が推進され、ほぼすべての科目で LMS が利用されるなど学部内での ICT の利活用等はほぼ浸透したといえる。また、「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業(令和 3 年度補正)」により多目的DX ルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各 1 回開催されるなど、アクティブラーニングを積算入する。 D他、各科目において、学生の	IV 1. COVID-19 への対応の継続及び DX 化が推進され、ほぼすべての科目で LMS が利用されるなど学部内での ICT の利活用等はほぼ浸透したといえる。また、「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業 (令和 3 年度補正)」により多目的DX ルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各 1 回開催されるなど、アクティブラーニングで積算入する。 D他、各科目において、学生の	IV 1. COVID-19 への対応の継続及び DX 化が推進され、ほぼすべての科目で LMS が利用されるなど学部内での ICT の利活用等はほぼ浸透したといえる。また、「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業 (令和 3 年度補正)」により多目的DX ルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各 1 回開催されるなど、アクティブラーニングを積算入する。 D他、各科目において、学生の D他、各科目において、学生の DO (大きないの) (大き	IV 1. COVID-19 への対応の継続及びDX 化が推進され、ほぼすべての科目で LMS が利用されるなど学部内での ICT の利活用等はほぼ浸透したといえる。また、「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業 (令和3年度補正)」により多目的DX ルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各1回開催されるなど、アクティブラーニングを積算入する。D他、各科目において、学生のDの位、各科目において、学生の

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
「評価指標」	「評価指標」						
・ICT活用科目数、アクティブ・ラ	・令和3年度比、ICT活用科目数、ア						
一二ングを取り入れた科目数、各科目	クティブ・ラーニングや習熟度別クラ						
での成績評価結果、各科目での学生か	ス等の工夫を取り入れた科目数 2%増						
らのフィードバック、授業評価アンケ	加						
ート結果、教員間での情報共有機会の	・教員向けに関連する研修の開催状						
数	況						
2. 学生等の多様性に対する教職員の	2. 学生等の多様性に対する教職員の	IV	2. FD 委員会と共催で、「学生の個別ニーズに応じた相談支援研修」を 8 月 24 日に開				
里解を促進する。	理解を促進する。		催した。				
1) 教職員の多様性への理解を向上さ	学生等の多様性をテーマとした教職						
せ、多様性に配慮した授業運営を行	員研修、カリキュラム評価・授業評価						
う 。	報告において学生の多様性への対応						
2) 教職員に対し、多様性に関する研	を視点とした評価を実施する。						
修や情報共有の機会を定期的に設け							
る。							
「評価指標」	「評価指標」						
・多様性に関する研修・情報共有機会	・令和 3 年度から継続して多様性に						
の数、教員へのフィードバック調査の	関する研修・情報共有機会の提供状況						
結果、授業評価アンケート結果							
【計画 15-3】							
第2期中期目標・計画における教育の							
評価を行い、DP及び社会ニーズの変							
化に応じたカリキュラムへの改定を							
行う。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 15-3】						
教育活動と成果の点検評価及び改善	1. 教育活動と成果の点検評価及び改	Ш	1.4月に将来構想委員会の下部組織として、カリキュラム評価プロジェクトを立ち上				
舌動を行う。	善活動を行う。		げ、カリキュラム評価に関する拡大会議の後、①DP とのシラバス照合、②全科目の授				
学生からの授業評価並びにそれに対	①カリキュラム改定ワーキングを設		業評価アンケートの分析、③4年生卒業時カリキュラム評価アンケート、④現行カリ				
する教員の自己評価、各会議での検討	置し、現行カリキュラムの点検評価、		キュラムの看護学教育モデルコアカリキュラムとの照合点検(全教員参加)を行い、				
等に基づき、大学院DPに照らした点	改定に至るスケジュールと運営の方		3 月に FD 報告会を開催した。また、プロジェクトメンバーで、現行カリキュラムにお				
検評価を行い、CP、APおよびDP	法(学部内外の領域・委員会等の連携		いて改善が急がれる事項を全領域から聞き取り、教務委員会に①4年次4月の時間割				
の改定に向けた準備を行う。	含)を立案する。		の過密の緩和、②統合実習の運営方法の改善(教務委員会着手中)、③精神医学の学				
	 ②これまでの学生授業評価、及び当該		 修を組み入れる必要性などについて申し入れ、教務委員会により対応が始められてい				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	 評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会詞
		区分		区分		区分	
	年度の終了時点での状況を資料とし		る 。				
	た点検評価会議を開催し、DPの達成		・令和5年度は、カリキュラム改定に向けたワーキングに発展させていくことが課題				
	状況を評価するとともに、改善点を検		である。				
	討する。						
	③卒業生とその就職先を対象とした						
	調査を行い、卒業後のニーズからみた						
	カリキュラムおよび教育方法の評価						
	を行う。						
	④ F D 研修会として、学士課程に求め						
	られるものやその変化、及び看護学教						
	育ならびに、看護学の学士課程に求め						
	られるものやその変化について研修						
	を行う。						
「評価指標」	「評価指標」						
・検討会の開催回数、成果物として	・検討会・評価会議・研修会の開催						
の新カリキュラムの有無と内容	各1回、卒業生を対象とした調査結						
	果、教員を対象としたFD研修によ						
	る学びのレポート内容、成果物とし						
	ての新カリキュラムに向けた改善内						
	容の提言						
【計画 15-4】 🍞							
学生の主体性を涵養する教育を推進							
する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 15-4】						
1. 教育DX化と並行して、学生が自己	1. LMSを用いた学修ポートフォリ	Ш	1. LMS を用いた学修ポートフォリオの実施について記載フォームを検討し、令和5年				
の学修活動を記録し振り返ることが	オの具体的な計画の検討と部分的な		度より試行することとして準備した。				
可能な仕組みを準備し、年に 1 回以	試行を開始する。						
上、学生自身が学修活動について振り							
返り、その後の自らの目標について考							
えることができるよう指導する。							
[評価指標]	[評価指標]						
・学修活動の記録と目標についての	・学修活動の記録と目標についての						
自己評価を、各学年のほぼすべての学	自己評価を、各学年のほぼすべての学						
生が実施する(1 回/年)	生が実施する(1回/年)						

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価区分	令和 4 年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
		ムガ		ムガ		区方	
2. 千葉看護学部のビジョンに共鳴す	2.a. 受験生対象の学部説明において	IV	2. 地域交流イベントで企画した2つの公開講座に関して、3名の学生が運営を手伝っ				
る受験生を確保する。学生がビジョン	本学部のビジョンをわかりやすく説		た。船橋市が 5 月に募集する 1 年間のボランティア情報を年間通じて学生に掲示し				
に照らして自己評価できるプログラ	明し、参加者の反応を把握し、必要		<i>t</i> =。				
ムを作成し、本学部のビジョンを具現	に合わせ改善する。		・オープンキャンパス・学部説明会計 7 回実施、参加人数計 518 組 (R3 年度 410 組)、				
化するために入学前から継続した教	b. これまでの入学前準備プログラム		参加者のアンケート内容は「学部の特色が良く理解できた」「是非入学したい」など				
育・学生支援を実施する。	を継続しつつ、参加者アンケートに		肯定的なのものがほとんどであった。				
	てよりニーズに合うプログラムにす		・入学前準備プログラムのうち「大学での学修を知ろう part2」はオンラインから対				
	る。また、学校選抜型入試での入学		面とし継続実施した。参加者アンケートは入学後に実施する計画を立案し準備してい				
	予定者及び、その高校(校長)に入		る。また、学校進線型入試、および総合型選抜での入学予定者の高校(校長)すべて				
	学前準備プログラムを周知する。		の入学前準備プログラムの資料を送付し、その周知を図った。				
	c. 学生に対して定期的にガイダンス		・各学年、各セメスター開始時、終了時に履修ガイダンス・履修指導を行ったほか、				
	を実施し、具体的な履修につながる		1 年生には定期試験に向けたガイダンスを追加で行った。				
	ようにする。						
	d. 講演会やイベント、ボランティア						
	募集に関して定期的に情報提供を行						
	う。						
[評価指標]	[評価指標]						
・オープンキャンパス実施回数(5回	・オープンキャンパス実施回数(5回						
/年)・参加人数 (定員8割以上)・参	/年)・参加人数(定員8割以上)・参						
加者アンケート内容、入学前準備プロ	加者アンケート内容、入学前準備プロ						
グラムの参加人数(対象者の 7 割以	グラムの参加人数(対象者の 7 割以						
上)・参加者アンケート内容(肯定的	上)・参加者アンケート内容(肯定的						
評価が7割以上)、学年別ガイダンス	評価が7割以上)、学年別ガイダンス						
の実施状況(4回/年)、ビジョンにつ	の実施状況(4回/年)、ビジョンにつ						
いてのポートフォリオの記録回数(1	いてのポートフォリオの記録回数(1						
回/年)・実施人数(ほぼ全ての学生)、	回/年)・実施人数(ほぼ全ての学生)、						
学生ボランティアの割合(5人/回)、	学生ボランティアの割合(5人/回)、						
情報提供の頻度(3回/年)	情報提供の頻度 (3回/年)						
	3.a. 外部の保健医療福祉関係者の授	Ш	3. 学部の保健医療福祉関係者の授業は1年生14回、2年生8回、3年生4回、4年				
めるため、1年前期から看護の現場で	業の実施状況(特に低学年)を確認		生 1 回の計 27 回、加えて JCHO 船橋中央病院の医師らによる疾病や治療に関する講義				
の演習を実施すると共に、授業内外	し、次年度に反映させる		が上記分を除き 67 回実施されており、十分に行われている。1 年次前期の看護学概				
で、看護職や人々の健康に関する講演	b. これまでのプログラムを継続し学		論における見学演習を継続した。将来構想委員会のカリキュラム評価プロジェクトに				
会・イベント等の参加機会を提供する	生および教員からの評価調査を実施		より、4年次学生へのアンケートならびに専任教員全員に対するヒヤリングを行った。			1	

下面 区分 区分 区分 区分 区分 区分 区分 区							
図グ	第3期中期計画	令和 4 年度計画	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
でき、アーリー・エクスボージャーの							
誘動とともに関係する。	など、アーリー・エクスポージャーの	するとともに、カリキュラム全体と					
	プログラムを行う。	しての点検評価をカリキュラム改正	下に関する公開講座 1、および白梅学園大学子ども学部教授によるヤングケアラーに				
日本日本日本		活動とともに開始する。	関する公開講座 2 を開催した。それぞれ 34 名、35 名の参加者があった。				
1		c. 講演会やイベント、ボランティア	教員からの学外の講演会やイベントの案内は8回であり、その他学会やイベント等				
【野衛指導】 ・ プ外の西域・秀産保護福祉関係者等 による提案回数(5回/年)、石間学校 教の性素が他(他合資部が 4 以上)、 教教がでの書かる整理域は出版場名 等による環境会・イベント等の変列回 数(1回/年)、参加人数(5人/回) 数(1回/年)、参加人数(5人/回) 【中度計算 18-0 ◆ 生馬宇育支援を経験 し、これが大学ビジョンに関する のとなっているかを辞録し、改善す るための10Tを満用した基礎を提 構する。 ・ イン・プル、・ 不実を理学が対象 を そイン・プル、・ 不実を理学が対象 を そイン・プル、・ 不実を理学が対象 を そん・プル・ 不実を理学が対象 を でいたのにはなずるを健康 (表対・会話の大国間のための方 第一・企用を いたの大国地のため アー カイ ブラル、・ 不実を理学が対象 を でいたのにはなずると健康 (表対・会話の大国制のための方 アーカイ ブラル、・ 年を理学が対象 要率や仕様か(インフラ、ソフトン ステム、 広報・他職長との連絡、 ・)と、そのたのにはなずると健康 (表対・会話の大国制のための方 アーカイ ブラル、・ 手も会が)に関する 教育会を関係する。(1回) 実践程金と反映の事態と分析による 済化・金度が可能となるよう。多項 派の時にデータの悪したい大議項目 を でいむ、 「この下のご話はすると健康 、 は、会話の可能となるよう。多項 派の時にデータの悪したい大議項目 を でいむ、 「この下のご話用した仕様かを検討 し、 「この下のご話用した仕様かを検討		 募集に関して定期的に情報提供を行	のチラシの掲示が行われており、十分に行われたと考える。参加者数については、大				
「評価報酬」 ・学外の様態・原模技権相関係書等 による結果の後にして主きで展して、記字を確 途の政策が再(総合評価が4以上)、 投資がでの記述・医療機能報送域話音 等による情景の後、の大学の下の説性・医療機能報送域話音 等による情景の後、の大学の下の問 技 (1回/年)、参加人数(6人/回) 【報酬 18-5】 ・ 生涯子音支弦を継続する。 「軽面調像のための方算」 し、これが大学ビジョンに向かっち。 し、これが大学ビジョンに向かっち。 たかの 1 C T を素用した基盤を整 性する。 ・ 大学、大学と社会とつなるりよう をインーンにし、不養者理学師が生 歴学書と関かりを定なているかを評価し、歌せす るための 1 C T を素用した基盤を整 性する。 ・ 大学 大学と社会とつなるりよう をインーンにし、不養者理学師が生 歴学書と関かりを定なる。 ・ 大学 大学と社会とつなるりまう をインーンにし、不養者理学師が生 歴学書と関かりを定なる。 ・ 大学 大学と社会とつなありまう をインーンにし、不養者理学師が生 歴学書と関かりを定なる。 ・ 大学 大学と社会とつなるりまう をインーンにし、不養者理学師が生 歴学書と関かりを定なる。 ・ 大学 大学と社会とつなるりまう をインーンにし、不養者理学師が生 歴学書と関かりを定なる。 ・ 大学 大学と社会とつなるりまう をインーンにし、不養者理学師が生 歴学書と関かりを定なる。 ・ 大学 大学と社会とつなるかりよう をインーンにし、不養者理学師が生 歴学書と関かりを定なる。 ・ 大学 大学と社会とつなるかりよう をインーンにし、不養者理学師が生 歴学書と関かりを定なる。 ・ 大学になきなかったため、次年度の何条構想会 書金の課題とする。 ・ 大学はおきないできなかったため、次年度の何条構想会 書金の課題とする。 ・ 大学はおきないできなかったため、次年度の何条構想会 書金の課題とする。 ・ 大学はおきないできなかったため、次年度の何条構想会 書金の課題とする。 ・ 大学に関する。 ・ 大学に関する。 ・ 大学に対しています。 ・ 大学に関する。 ・ 大学に		う。	 学で取りまとめた災害訓練は 32 名であったが、それ以外は任意参加としており数の				
- プ外の台種 - 所産保証信担密降音等 による投資制数 (5 周元) ・ 飛渡学報 (総合資格) ・ 対の受害 所産保証信用係 4 以上) 、			把握はできていない。				
による授業回数(5回/年)、青道学報 による使業回数(5回/年)、青道学報	 [評価指標]	 [評価指標]					
議の授業評価 (総合評価が4以上)、 接受外での香港・医療保証性短期係者 等による講演会・イベント等の案内回 数 (1回/年)、参加人数 (5人/回) 数 (1回/年)、参加人数 (5人/回) 【年度計画15-15 (今 生産学学及経験する。 「特理連成のための方策」 1 - 年底社会学部における、享生セ し、これが大学ビジョンに向かうも のとなっているかを指価し、改善す。 をイメージでは、「美型程学部が生 選学習実証の場となるために必要な 素を付出場ト (インフラ、ソフトシ ステム、広線、他機団との連携・ 等)と、そのために確化する後継 (参材・変図の共同利用のためのア 一カイ型液、等も含め)に関する 株容を配面する。(1回) 実験経過と次系や性場外・(インフラ、ソフトシ ステム、広線、他機団との連携・ 等)と、そのために関する 株容を配面する。(1回) 実験経過と次系や性場外・(インフラ、ソフトシ ステム、広線、他機団との連携・ 等)と、そのために確化する後継 (参材・変図の共同利用のためのア 一カイ型液、等も含め)に関する 株容を配面する。(1回) 実験経過と次系の事権とがあよる。各種 活動時にデータ収集したい共通信目 実践い世に、アンケート知目を作成 し、「CTを活用した性根外を検討	・学外の看護・医療保健福祉関係者等	・学外の看護・医療保健福祉関係者等					
授業外での若達・医療保健補地関係者 第による譲渡金・ベベント等の案内回 数 (1回/年、参加人数 (5人/回) 数 (1回/年、 5人/回) 数 (1回/年) (10回/年) (10回/年	 による授業回数 (5 回/年)、看護学概	による授業回数 (5回/年)、看護学概					
等による議漢会・イベント等の案内回 数 (1 回/年)、参加人数 (5 人/回) 【計画 16-5] ⑦ 生選学習支援を権続する。 「計画基成のための方案」	 論の授業評価 (総合評価が 4 以上)、	論の授業評価 (総合評価が4以上)、					
数 (1回/年)、参加人数 (5人/回) 数 (1回/年)、参加人数 (5人/回) (計画 15-5] ② 生涯学習支援を継続する。 「計理達成のための方集」 1. 千葉者護学部における、卒業生と し、これが大学ビョンに向かうも ため 1. 千葉者護学部が生 理等可支援の場となるために必要な 選素や仕組み (インフラ・ソフトシステム、広報、 能機関との連携、 等) と、そのために製造の事業はする・緩慢で必要性で、(教材・資源の共同利用のためのアーカイブ整理 (教材・資源の共同利用のためのアーカイブを構 等) を、そのために最大を検討を指揮する。(1回) 実践経過と成果の悪所と分析による 評価・改善が可能となるよう、各種 活動にデータ収集したい共通項目を光いし、アンケート項目を作成 し、1 CTを活用した性組みを検討	 授業外での看護・医療保健福祉関係者	授業外での看護・医療保健福祉関係者					
【計画 15-5】 ② 生涯罕野支援を継続する。 「計画選成のための方策」 1. 千業有護学部における、卒業生と し、これが大学ビジョンに向かうも のとなっているかを評価し、改善す るための1 CT を活用した基盤を整 編する。 「表し、そのために強化すると他能 (飲材・資源の共同利用のためのア 一カイブ整備、等も含め)に関する 検討会と関係であるよう。(回) 実践経過と成果の帯積と分析による 評価・改善が可能となるよう、各種 活動物にデータ収集したい共通項目 を洗い出し、アンケート項目を作成 し、I CT を活用した性組みを検討	等による講演会・イベント等の案内回	等による講演会・イベント等の案内回					
生選学習支援を経続する。 「計画達成のための万策」 1. 学部における生選学習支援を継続 し、これが大学ビジョンに向かうも のとなっているかを評価し、改善す るためのICTを活用した基盤を整 値する。 「学習支援の場となるために必要な 要素や性組み(インフラ、ソフトシ ステム、広根、他限関との連携、 等)と、そのために強化すべき機能 (教材・資源の共同利用のためのア ーカイブ整備、等も含め)に関する 検討会を開催する。(目回 実践経過と収集の蓄積と分析による 評価・改善が可能となるよう。各種 活動時にデータ収集したい共通項目 を洗い出し、アンケート項目を作成 し、ICTを活用した世組みを検討	数(1回/年)、参加人数(5人/回)	数(1回/年)、参加人数(5人/回)					
生選学習支援を経続する。 「計画達成のための万策」 1. 学部における生選学習支援を継続 し、これが大学ビジョンに向かうも のとなっているかを評価し、改善す るためのICTを活用した基盤を整 値する。 「学習支援の場となるために必要な 要素や性組み(インフラ、ソフトシ ステム、広根、他限関との連携、 等)と、そのために強化すべき機能 (教材・資源の共同利用のためのア ーカイブ整備、等も含め)に関する 検討会を開催する。(目回 実践経過と収集の蓄積と分析による 評価・改善が可能となるよう。各種 活動時にデータ収集したい共通項目 を洗い出し、アンケート項目を作成 し、ICTを活用した世組みを検討							
「計画連成のための方策」	【計画 15-5】 🍞						
1. 子葉看護学部における ・	生涯学習支援を継続する。						
し、これが大学ビジョンに向かうも 大学、大学と社会をつなぐありよう をイメージ化し、干菜看護学部が生 涯学習支援の場となるために必要な 要素や仕組み (インフラ、ソフトシステム、広報、他機関との連携、 等)と、そのために強化すべき機能 (教材・資源の共同利用のためのアーカイブ整備、等も含め)に関する 検討会を開催する。(1回) 実践経過と成果の蓄積と分析による評価・改善が可能となるよう、各種 活動時にデータ収集したい共通項目 を洗い出し、アンケート項目を作成し、ICTを活用した仕組みを検討	「計画達成のための方策」	【年度計画 15-5】					
のとなっているかを評価し、改善す	1. 学部における生涯学習支援を継続	1. 千葉看護学部における、卒業生と	I 1. 当該目標に関する検討会は開催しなかった。				
るための1 C T を活用した基盤を整要素や仕組み (インフラ、ソフトシ 要素や仕組み (インフラ、ソフトシ ステム、広報、他機関との連携、等)と、そのために強化すべき機能 (教材・資源の共同利用のためのアーカイブ整備、等も含め)に関する 検討会を開催する。(1回) 実践経過と成果の蓄積と分析による 評価・改善が可能となるよう、各種 活動時にデータ収集したい共通項目 を洗い出し、アンケート項目を作成 し、1 C T を活用した仕組みを検討	し、これが大学ビジョンに向かうも	大学、大学と社会をつなぐありよう	評価のための仕組み作成にも着手することができなかったため、次年度の将来構想委				
備する。 要素や仕組み(インフラ、ソフトシステム、広報、他機関との連携、 等)と、そのために強化すべき機能 (教材・資源の共同利用のためのアーカイブ整備、等も含め)に関する検討会を開催する。(1回) 実践経過と成果の蓄積と分析による 評価・改善が可能となるよう、各種 活動時にデータ収集したい共通項目 を洗い出し、アンケート項目を作成 し、ICTを活用した仕組みを検討	のとなっているかを評価し、改善す	をイメージ化し、千葉看護学部が生	員会の課題とする。				
ステム、広報、他機関との連携、 等)と、そのために強化すべき機能 (教材・資源の共同利用のためのア ーカイブ整備、等も含め)に関する 検討会を開催する。(1回) 実践経過と成果の蓄積と分析による 評価・改善が可能となるよう、各種 活動時にデータ収集したい共通項目 を洗い出し、アンケート項目を作成 し、ICTを活用した仕組みを検討	│ │ るためのICTを活用した基盤を整	涯学習支援の場となるために必要な					
等)と、そのために強化すべき機能 (教材・資源の共同利用のためのア 一カイブ整備、等も含め)に関する 検討会を開催する。(1回) 実践経過と成果の蓄積と分析による 評価・改善が可能となるよう、各種 活動時にデータ収集したい共通項目 を洗い出し、アンケート項目を作成 し、ICTを活用した仕組みを検討	備する。	要素や仕組み(インフラ、ソフトシ					
(教材・資源の共同利用のためのア ーカイブ整備、等も含め)に関する 検討会を開催する。(1回) 実践経過と成果の蓄積と分析による 評価・改善が可能となるよう、各種 活動時にデータ収集したい共通項目 を洗い出し、アンケート項目を作成 し、ICTを活用した仕組みを検討		ステム、広報、他機関との連携、					
 一カイブ整備、等も含め)に関する 検討会を開催する。(1回) 実践経過と成果の蓄積と分析による 評価・改善が可能となるよう、各種 活動時にデータ収集したい共通項目 を洗い出し、アンケート項目を作成 し、ICTを活用した仕組みを検討 		等)と、そのために強化すべき機能					
検討会を開催する。(1回) 実践経過と成果の蓄積と分析による 評価・改善が可能となるよう、各種 活動時にデータ収集したい共通項目 を洗い出し、アンケート項目を作成 し、ICTを活用した仕組みを検討		(教材・資源の共同利用のためのア					
実践経過と成果の蓄積と分析による 評価・改善が可能となるよう、各種 活動時にデータ収集したい共通項目 を洗い出し、アンケート項目を作成 し、ICTを活用した仕組みを検討		一カイブ整備、等も含め)に関する					
評価・改善が可能となるよう、各種 活動時にデータ収集したい共通項目 を洗い出し、アンケート項目を作成 し、ICTを活用した仕組みを検討		検討会を開催する。(1回)					
活動時にデータ収集したい共通項目 を洗い出し、アンケート項目を作成 し、ICTを活用した仕組みを検討		実践経過と成果の蓄積と分析による					
を洗い出し、アンケート項目を作成 し、ICTを活用した仕組みを検討		評価・改善が可能となるよう、各種					
し、ICTを活用した仕組みを検討		活動時にデータ収集したい共通項目					
		を洗い出し、アンケート項目を作成					
する。		し、ICTを活用した仕組みを検討					
		する。					

第3期中期計画	令和 4 年度計画	== / ==	令和 4 年度計画達成状況	== /==	自己点検・評価委員会	== /==	内部質保証推進会議
₩ 0 ₩ 1 ₩ 1 ₪		評価	1741年中发出固定成份加	評価	口口派仪 叶侧女良女	評価	7100 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
		区分		区分		区分	
[評価指標]	[評価指標]						
・当該目標に関する検討会開催回数	・当該目標に関する検討会開催回数						
と参加人数、評価のための仕組み作	と参加人数、評価のための仕組み作						
成状況と実施状況	成状況と実施状況						
2. 卒業生を継続してサポートできる	2. 学生同窓会委員と連携し、持続可	Ш	2.卒業生の連絡先登録は、3/15 時点で 70%であり、登録を促す連絡を行っている状				
仕組みを整備し、学びの機会を提供	能な卒業生の連絡先管理および継続		況である。メールマガジンは3月中に2回目の発行を予定している。地域交流イベ				
する。	教育支援の方法を構築し、年度末に		ントにおいて開催した2つの講演会の案内はメールマガジンで情報連携したが、卒				
	現状と改善策をとりまとめる。		業生の参加は2名程度であった。連絡先管理の仕組みは整備できたが、全員登録は				
[評価指標]	[評価指標]		任意性を鑑みて現実的ではないとも考えられる。次年度以降は、登録 90%程度を目				
・卒業生の連絡先を管理する仕組み	・卒業生の連絡先を管理する仕組み		指す。講演会への卒業生の参加は、コロナ禍の影響も大きいと考えられる。次年度				
の作成と登録状況(100%)、年2回	の作成と登録状況 (100%)、年2回		は将来構想委員会による卒業生を対象としたイベント開催も合わせて企画を検討				
のメールマガジンの発行、講演会等	のメールマガジンの発行、講演会等		し、早めの情報提供を行う。				
の案内回数(年2回)と参加人数	の案内回数(年2回)と参加人数						
(各回 50%)	(各回 50%)						
3. 実習指導者講習会およびフォロー	3. 事務部と連携し、実習指導者講習	IV	3. 実習指導者講習会 (30 日間コース) については、40 名定員のところ 48 名の受講				
アップ研修会、受講施設管理者を対	│ │ 会、フォローアップ研修、受講施設		(募集定員の 120%)となり、目標を達成することができた。ただし、7 日間コース				
象とした研修・情報交換を開催し、	管理者を対象とした研修・情報交換		については 40 名定員のところ受講者は 18 名 (募集定員の 45%) と、目標を大幅に				
千葉県内の実習指導者育成と質の向	を企画・周知・実施し、実績と改善		下回っている。コロナの感染拡大により、訪問看護ステーションからの申し込みキャ				
上に貢献する。	策を取りまとめる。		ンセルなども複数あり、今後の感染収束後の受講者の動向を確認する。フォローアッ				
[評価指標]	[評価指標]		プ研修については対面で実施したものの、27名が参加(56.3%)し、目標は達籍で来				
• 実習指導者講習会参加人数(募集	・実習指導者講習会参加人数(募集		たと考える。なお、上記3研修ともに終了時の受講生アンケートでは、満足度したと				
定員の 120%)、修了時の満足度	定員の 120%)、修了時の満足度		の回答がおおむね90%を超え、100%を達成する項目も多数存在しており研修内容の				
(70%以上)、フォローアップ研修の	(70%以上)、フォローアップ研修の		担保については目標を達成したものと考えられる。				
参加人数 (50%以上)、受講施設管理	参加人数(50%以上)、受講施設管理						
者を対象とした研修・情報交換の参	者を対象とした研修・情報交換の参						
加人数、自施設の実習指導の質向上	加人数、自施設の実習指導の質向上						
についての評価	についての評価						
4. 主として千葉県北西部及びJCH	4. 実習指導者講習会やJCHO本	IV	4. 千葉県看護協会からの講演依頼は下記合計5件である。				
Oの看護・介護職者等に向けた生涯	部・各病院に対して、教員の研究内		「看護管理ビギナー研修」「タイムマネジメント研修」				
学習機会を提供する。	容、講演できる内容などを周知す		「認定看護管理者教育課程セカンドレベル」2件				
	る。研修会や講師依頼などの実績を		「認定看護管理者教育課程サードドレベル」				
	年度末に取りまとめる。		・JCHO 本部からの講演依頼は下記 5 件である。				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況 評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分	区分		区分	
[評価指標]	「評価指標]		「認定看護管理者研修セカンドレベル(人材育成)」			
・千葉県内及びJCHOからの講師	・千葉県内及びJCHOからの講師		「同(医療安全)」他、3件			
依頼内容・件数、本学部主催または	依頼内容・件数、本学部主催または		「JCCHO 保健師助産師看護師実習指導者講習会 (実習指導方法)」			
共催(有志含む)による研修会等の	共催(有志含む)による研修会等の		・JCHO 船橋中央病院からの講演依頼は下記合計 3 件である。			
開催回数・参加者、満足度	開催回数・参加者、満足度		「令和 4 年度新卒看護職員研修」			
			「ラダーⅢ研修(看護研究の講義と研究指導)」			
			「看護研究支援」			
			・JCHO 東京山手メディカルセンターからの講演依頼は下記 1 件である。			
			「看護研究の講義と研究指導」			
			・JCHO 埼玉メディカルセンターからの講演依頼は下記 1 件である。			
			「看護研究指導」			
			・本学部主催または共催の研修はなかった。			
【計画 15-6】 🍞						
教員の研究力の向上を図る。						
「計画達成のための方策」	【年度計画 15-6】					
1. 教員の研究活動の情報交換会を定	 1. 定期 F D 研修やイブニングセミナ	IV	1. 活動報告会において、「からだフシギプロジェクト」の情報共有を行った。			
期的に継続する。	一で教員の研究活動について情報共					
	 有を行う。					
「評価指標]	「評価指標」					
情報交換会の開催回数(1回/年以	- 情報交換会の開催回数(1回/年以					
上)	上)					
2. 学会(国際・国内)で、研究成果を	2. 年度末の学部活動報告会で国際学	Ш	2. 国際学会参加人数:9 人、			
発表を促進し、発表する。	会及び学内学会で発表した教員につ		国際学会発表人数:3人			
	いて情報共有を行う。		国内学会参加人数: 24 人			
「評価指標]	「評価指標]		国内学会発表人数:12 人			
· 国際学会参加人数(1人/年以上)、	・国際学会参加人数(1人/年以上)、		学部活動報告会での情報共有は実施されなかった。			
国際学会発表者人数 (1 人/年以上)、	国際学会発表者人数(1人/年以上)、					
国内学会発表者割合(年間7割)	国内学会発表者割合(年間7割)					
3. 研究成果を査読のあるジャーナル	3. 年度末の学部活動報告会で論文採	Ш	3. 論文(国内)採択人数:11 人 15 件			
への投稿を促進し、採択される(共同	択された教員について情報共有を行		論文(海外)採択人数:2人2件			
執筆含)。	う。		学部活動報告会での情報共有は実施されなかった。			
「評価指標]	 「評価指標]					

第3期中期計画	令和 4 年度計画	= 	令和 4 年度計画達成状況	≘क्त /ऋ	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会講
N O WIT MILL	PIRTIXII	評価 区分	13 THE FOREIGN NO.	評価			
・採択者人数、採択者割合(国際・国	・採択者人数、採択者割合(国際・国	卢 万		区分		区分	
	内、年間で全教員数のうち4割以上)						
内、年間で全教員数のうち4割以上)	内、中间で主教員数のプラギ刮以工/						
〇和歌山看護学部							
【計画 16−1】 🥜							
「大学での主体的な学び方の体得」及							
び「地域を理解する科目の充実」、「地							
域への愛着形成の支援」を図る。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 16-1】						
1.主体的な学習に取り組めるために	1. 「大学での主体的な学び方の体	IV	1. 初年次教育において、「アカデミック・スキル」「わかやま学」を設定し、さらに複		・第3章【計画9】卒業後の支		
必要なカリキュラムと機会を充実す	得」、「地域を理解する科目の充実」		数科目で高校から大学教育への円滑な意識の転換と能動的な学習方法を身につけ、専		援体制の部分を第4章に移動す		
る 。	に関する科目を開始する。		門教育における自主的・主体的な学習への移行を目指した取り組みを行った。主体的		る。→担当部局において計画の		
2. 入学初期に主体的な学び方に関す	2. 先輩学生からの学習経験をもと		に学べるよう、シラバスにアクティブラーニングを明示し、全科目で学びの質を保つ		一部変更を行うことで対応済		
る科目と地域への関心を高めるため	に、学習計画を立て実行する。		ためにシラバスチェックをシステム化した。国試対策は 1~3 年生には、模試後の振		み。		
の科目を設定する。	[評価指標]		り返り、学習の促進(国試 Web の活用、各種業者の講座やサイト紹介、アプリの情報				
[評価指標]	・カリキュラム実施状況		提供など)など主体的に国試に向かう取り組みを推進している。4年生には年間計画				
・カリキュラム実施状況	・愛着の程度を把握		を立て目標シートを各自が作成し、国試委員・アドバイザーと学生の情報共有ツール				
・愛着の程度を把握			として webclass を活用して学生の主体的な取り組みを支援した。				
			非常勤講師(日赤和歌山医療センター医師)担当科目である「体の仕組みと働き」、				
			「治療学総論」、「疾病治療論」の講義内容、試験問題内容等について、成果に応じて				
			学生の主体的な学びの促進のために学部教員が支援を行い、教育目標の共有のために				
			日赤和歌山医療センターとの合同教育会議を2回実施した。国試対策は1年次から系				
			統的に主体的に取り組めるシステムとして実動している。				
			2. 先輩学生の取り組みの成果を受けて、学生に「予習シート」、「目標設定シート」を				
			配布し、主体的な学びが行えるように支援を実施した。国家試験への取り組みについ				
			て、医愛祭の企画として1期生を招き、具体的な内容や進め方の話を聞く機会を持っ				
			た。低学年も含め参加学生が熱心に聞き質問をしていた。				
			- 学習支援した多くの科目の平均点が一定の水準に到達するなど取り組みの成果が				
			見られた。学生自身が目標を設定し、アドバイザーと共有して学習を進めることがで				
			きている。国試対策では取り組みのイメージがついたと学生の反応であり、学習が進				
			み、看護師および保健師国試とも不合格者は1名であった。				
			わかやま学の授業評価で「和歌山のすばらしさを知った」「和歌山に住んでいたが知				
			らないことが知れた」など自由記述が多く、愛着形成に効果があった。アクションプ				
			 ランチームは今年度は科目内容を把握し、次年度からの活動を検討した。				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価区分	令和 4 年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画 16-2】⑦		区刀		区刀		区刀	
「ボランティア活動の体系化」、							
「地域の看護教育ボランティアから							
の学びの推進」及び「関連団体と連携							
した社会的要請への対応」を図る。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 16-2】						
1. 地域へのボランティア活動の推進	1. ボランティア活動を体系化し試行	Ш	 1. ボランティア依頼は玄関ホールに掲示し、さらに学生に声をかけて募集を行った。				
と、地域住民の看護教育へのボランテ	的に運用する。		 活動届は Web 上で提出できるようにした。 ボランティア活動のサポート体制として学				
ィア参加を進める。	2. 赤十字活動参加学生と活動数を増		│ │生全員が和歌山市ボランティア保険に加入している。学生のボランティア活動に加				
2. 赤十字活動を中心とした活動を活	加させる。		 え、地域住民の看護教育への協力を得る看護教育ボランティアの説明会にも学生ボラ				
発化する。			ンティアが参加した。				
			 2. 学生赤十字奉仕団を団員 12 名で発足し、活動を開始した。				
[評価指標]	[評価指標]		│ │ • ボランティア報告件数は延べ人数 118 名、活動団体数 54 種類であった。選択科目				
・ボランティア活動状況、教育ボラン	・ボランティア活動状況、教育ボラ		 「ボランティア論」74 名、「ボランティア活動」82 名の学生でが履修した。奉仕団発				
ティア参加状況、	ンティア参加状況		 足と教育ボランティアの集いについては大学ホームページに掲載している。本学学生				
			 が参加している学生団体の活動も SNS で発信し、学会発表がなされた。				
			 奉仕団は和歌山県支部の活動への参加、主体的な活動として子ども食堂イベント企画				
			 を実施した。その他、日赤和歌山医療センター大規模地震時医療活動訓練に 12 名が				
			参加、社協祭りへの参加など日赤関連、市関連団体への要請に応えている。				
【計画 16-3】 🍞							
異文化理解や語学力、コミュニケーシ							
ョン能力を習得させ、豊かな教養のも							
とに多様な価値観に対応できる医療							
人の育成を図る。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 16-3】						
1. 海外研修及び海外からの研修生の	1. 海外研修参加数 2 名以上を維持す	Ш	1. サイネージやポスターだけでなく個別的に声掛けをし、積極的に学生の研修参加へ				
受け入れ、近隣地域で生活する多国籍	る。		のアプローチを行った。				
の方との交流の機会をつくる。	2. ベトナムの大学との交流の機会を		2. MOU 締結後, COVID-19 の影響により交流の機会を持つことができなかった。				
2. 海外研修への参加案内と学生の参	1回以上つくる。						
加しやすい環境を整える。ベトナムの	3. 地域で生活する多国籍の人々との		3. 外国人医療従事者との交流会を開催した。				
大学との学生交流を進める。	交流の機会を1回以上つくる。		・オーストラリア研修 1 名、ハワイ研修に 1 名の参加があった。2023 年度にベトナ				
3. 近隣地域で生活する、または保健医			 ムのナムディン大学との交流会の開催を行えるように準備を進める。外国人医療従事				
療福祉施設で働く多国籍の人々との			者3名と学部学生14名の対面での交流ができた。				
交流の場をつくる。							

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
[評価指標]	[評価指標]						
・海外研修参加学生数、ベトナムの大	・海外研修参加学生数、ベトナムの						
学との学生交流の有無、多国籍の人々	大学との学生交流の有無、多国籍の						
との交流回数	人々との交流回数						
【計画 16-4】 🕏							
ICTを駆使する能力を備え、保健医							
療福祉に貢献できる医療人を育成す							
る。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 16-4】						
ICTを活用した授業の実施と充実	1. これまでに導入したシステムの有	Ш	1. WebClass, ZOOM, Vsim, Medi-EYE, スマートグラス, Tobii3Pro, 電子黒板を導入				
を図り、ICTによる主体的学習シス	効活用と評価を行う。		し、学内で使用できるよう初期設定した。Medi-EYE やスマートグラスを用いた授業・				
テムを構築し、学修成果の可視化を図	2. 新システム増設時の活用可能にす		演習設計についても報告し、ICT ツールや,Nursing-skill, Nursing Channel につい				
る。	るための研修を行う。		てマニュアルを作成して公開している。HSP 受講について学部内で周知し募集を行っ				
	3. 学習過程・成果の可視化を試行的		<i>t</i> =。				
	に開始する。		2. ICT ツールの使用状況とニーズ調査を行い、研修計画を立てた。WebClass, ZOOM の				
[評価指標]	[評価指標]		研修 2 回実施し、それぞれ 35 名が参加、90%以上が理解できたと回答した。レール				
・システムの利活用状況、新システム	・システムの利活用状況、新システ		ダル社によるナーシングアンの勉強会を 2 回実施し、参加者延べ 10 名が参加した。				
の利活用状況、学習過程・成果の可視	ムの利活用状況、学習過程・成果の		Web class で修学カルテを用いた実習記録の運用についての研修は参加者 36 名、				
化の程度	可視化の程度		90%以上が理解できたと回答し、今後の導入はしたいと思うが20%、検討したい80%				
			であった。可視化を進めるために、ICE ルーブリックの学部内の勉強会を 2 回開催し				
			た。入門編 20 名、実践編 10 名程度の参加であった。				
			3. 成人看護学領域が WebClass の修学カルテ機能を用いて実習記録の作成と管理を開				
			始し、2月に実践報告会を行なった。				
			・研修参加者は理解度が向上し、ZOOM についてはほとんどの領域で有効活用してい				
			る。電子黒板は授業・演習での使用実績がなく今後有効活用の場を見出していく必要				
			がある。複数科目で ICE ルーブリックが活用され始めたが 12%にとどまっている。				
			次年度には各領域で担当者を決めて推進してく。				
			HSP については 4 年生 8 名が修了し、ディプロマサプリメントを発行、1 年生 85 名、				
			2 年生 38 名、3 年生 52 名がコースを選択している。				
〇大学院医療保健学研究科							
【計画 17-1】 🦻							
教育理念・教育目標に沿った教育プロ							
グラムを構築するとともに、人材を育							

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
成するため、本研究科のカリキュラム							
についての見直しを行う。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 17-1】						
1. 大学の教育理念に則った教育プロ	1. 大学の教育理念に則った教育プロ	Ш	1-3. 各領域で 3P を設定し、それに基づいたカリキュラムを構築した。				
グラムの確立。	グラムの確立。		4. 教育制度の導入までに至らないが、教育方法としては、オンライン教育を充実させ				
2. 明確な教育目標の設定。	2. 明確な教育目標の設定。		ていった。				
3. 教育目標に応じたカリキュラムの	3. 教育目標に応じたカリキュラムの		5. 図書館データベースに自宅からアクセスが可能となり、自己学習の機会が充実し、				
再構築。	 再構築。		主体的な学修の支援システムが整備された。				
4. 新しい教育制度の導入。	4. 新しい教育制度の導入。		また、大学院教務委員会が発足し、定例会議が開催され、教務関連について、大学院				
5. 主体的な学修を促す教育方法の導	 5. 主体的な学修を促す教育方法の導		での検討が開始された。				
入。	入。						
「評価指標」	 「評価指標」						
・新しい教育制度の導入状況	・新しい教育制度の導入状況						
・主体的な学修を促す教育方法の導	 ・主体的な学修を促す教育方法の導						
入状況	入状況						
・大学院医療保健学研究科カリキュ	│ │・大学院医療保健学研究科カリキュ						
ラム評価班会議:5回	ラム評価班会議:5回						
【計画 17-2】⑦							
教育の質保証が実証できるマネジメ							
ントシステムを構築する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 17-2】						
研究指導の質を保証するためのマネ	研究指導の質を保証するためのマネ	Ш	1-3. 学部と共同で、研究倫理、科研費獲得へのプロセスなどに関する講義・講演を実				
ジメントシステムを構築する。	ングライス ジャントシステムを構築する。	_	施し、また FD 活動を通して、教員の教育・研究指導の能力を向上させるための支援				
1. FD活動による教育システムなど	│ │1. FD活動による教育システムなど		を実施し、質の保証に努めた。				
の開発。	の開発。		4. 定期的に、大学及び大学院の教育に関する質保証のための外部評価委員会が開催さ				
2. 教育プログラムの実効性の確認。	 2. 教育プログラムの実効性の確認。		れ、評価を受けて改善に繋げている。				
3. 教員相互協力による教育能力向	 3. 教員相互協力による教育能力向						
上。	上。						
4. マネジメントシステムの第三者評	 4. マネジメントシステムの第三者評						
価。	価。						
「評価指標」	「評価指標」						
FD活動による教育システムなど							
						1	

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
【計画 17-3】⑦							
学際的・国際的な視点から自分の専門							
性を認識できる人材育成システムを							
整備する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 17-3】						
グローバル化に対応した人材を育成	グローバル化に対応した人材を育成	Π	グローバル化に対応した人材を育成することとして、				
する。	する。		3. に関して立案した。学生自身が自分の専門性を認識し、2. 学生のグローバル・リ				
1. 学際的・国際的な視点から自分の	1. 学際的・国際的な視点から自分の		レーションシップ育成するために、まず、3.の実践的英語教育の導入を図った。				
専門性の認識。	専門性の認識。		そこで、実践的英語教育の導入状況として、「学術コミュニケーション特論」を開設				
2. 学生のグローバル・リレーション	2. 学生のグローバル・リレーション		し、抄録を英文で作成する能力の獲得までを目指した。授業は実施できたが、全員が				
シップ育成。	シップ育成。		抄録作成できるまでには至らなかった。				
3. 実践的英語教育の導入。	3. 実践的英語教育の導入。		修士・博士課程論文の学会発表状況は、各領域の関連学会における学術集会で発表は				
「評価指標」	「評価指標」		実践できているが、論文投稿に至ったものは少数であった。				
・実践的英語教育の導入状況	・実践的英語教育の導入状況		全体論文報告会では、修了生は全員発表を実践できた。				
・修士・博士課程論文の学会発表状況	・修士・博士課程論文の学会発表状況		海外発表に至ったのは1名であった。引き続き、海外発表および論文投稿に繋げられ				
·海外論文発表経験者数 年間3名以	·海外論文発表経験者数 年間3名以		るよう指導を行っていく。				
上	上						
【計画 17-4】 🅜 【計画 6 の再掲】							
大学院医療保健学研究科修士課程プ							
ライマリケア看護学領域令和5年度							
に開講するための準備を進めるとと							
もに、開講後適切に運営する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 17-4】						
大学院医療保健学研究科修士課程プ	1. 大学院医療保健学研究科修士課程	Ш	・①から③について、計画通り全て完了した。				
ライマリケア看護学領域令和5年度	プライマリケア看護学領域を開講す		・入学試験結果 11 名が合格した。準備状況においては、非常勤講師 77 名、実習施設				
に開講するため、関係機関との調整等	るための準備を進める。		の確保を完了し、現在は委嘱状の発行、教材作成を進めている。				
を着実に実施し、開講準備を着実に進	①3P の合意		・⑦演習教室の確保、⑧シミュレータの検討については、令和5年前期に改修工事等				
めるとともに、開講後適切に運営す	②カリキュラム策定		を行いシミュレータの設置など教育環境の整備を継続する。				
న 。	③講師陣、管理委員会メンバーの確		・また、講師情報の変更に伴って、厚生労働省の変更申請を随時行っていく。				
	保と大学における位置づけ						
	④オンライン科目の授業資料の作成						
	(令和5年度分)管理						
	⑤実習協力病院(病院・施設・在						
	宅)の確保						

₩ 0 #n + # n=! 	A10.4 5 5 2 7				<u>4</u> 7 4 ===================================		+n 66 In =+ 14 \4 ^ =+
第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価 区分	令和 4 年度計画達成状況	評価 区分	自己点検・評価委員会	評価 区分	内部質保証推進会議
	⑥放送大学連携申請						
	⑦演習教室の確保						
	⑧シミュレータの検討(リースも含						
	め)						
	⑨予算(物品費、人件費等)の概算						
	⑩特定行為に関する厚生局相談と申						
	請						
	⑪文部科学省への変更申請						
	⑫募集広報の作成と方法の検討						
	⑬入試問題等の作成						
「評価指標」	「評価指標」						
・大学院修士課程プライマリケア看	・大学院修士課程プライマリケア看						
護学領域の開講準備・運営状況	護学領域の開講準備状況						
(令和7・8年度)							
· 入学者数、特定行為管理委員会開催							
数、修了生の人数、日本 NP 教育大学							
院協議会における NP 資格認定試験合							
格者の人数、修了後の就業先と職務の							
状況、修了後の学会や研究会等の発表							
件数、在学生と修了生との交流及び研							
修会の開催状況							
【計画 17-5】 🕜							
独自の公開講座の開催など、学生の研							
究発表や研鑽の場を企画して提供し							
ていくとともに、科学的研究費などへ							
の申請数及び採択率の向上を目指す							
「計画達成のための方策」	【年度計画 17-5】						
1. 公開講座の開催。	1. 公開講座の開催。	Ш	1. 各領域から代表が集まり、その年のテーマを決めて公開講座を開催した。また公開				
2.競争的資金の獲得に向けて研究テ	2. 競争的資金の獲得に向けて研究テ		講座のプログラムの中で、修了生の研究発表が実施できた。				
一マを抽出する。	ーマを抽出する。		2-4. 教員及び大学院生による科研費の申請は試みているが、採択には至らなかった。				
3. 複数の領域が協力して、研究計画と	3. 複数の領域が協力して、研究計画と		査読結果に関しては、指導教員が共に指摘内容を確認し、計画修正に繋げている。				
応募書類を作成する。	応募書類を作成する。						
4. 審査結果の開示以降に、不採択理	4. 審査結果の開示以降に、不採択理						
由の検証を行う。また、不備の認めら	由の検証を行う。また、不備の認めら						

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
れる点について検討し、次年度申請の	れる点について検討し、次年度申請の						
採択率の向上を目指す。	採択率の向上を目指す。						
「評価指標」	「評価指標」						
・公開講座の開催年1回	・公開講座の開催年1回						
・科研費獲得に向けた取組状況	・科研費獲得に向けた取組状況						
【計画 17-6】 🍞							
コンセプトに基づく計画の立案と具							
体化を図り、国際感覚にあふれたキャ							
ンパスを実現する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 17-6】						
キャンパス教育環境向上プロジェク	キャンパス教育環境向上プロジェク	П	・キャンパス教育環境向上プロジェクトについては、施設環境の充実が図れていな				
トを推進する。知的創造のための拠	トを推進する。知的創造のための拠		い。次年度は、新設領域が開設されることからも、使用教室の調整や、キャンパス内				
点となるグローバル化に対応する施	点となるグローバル化に対応する施		の清掃・衛生管理を徹底し、システムを整備していくこととする。				
設環境を実現する。	設環境を実現する。						
「評価指標」	「評価指標」						
・キャンパス教育環境向上プロジェ	・キャンパス教育環境向上プロジェ						
クトの推進状況	クトの推進状況						
【計画 17-7】 🍞							
 学生が誇りを持てる学修環境を実現							
する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 17-7】						
1. 時代に見合った学部学科構築のた	1. 時代に見合った学部学科構築のた	Ш	1. オンライン上での ICT 教育を整備し充実させた。				
めの検討・実施。	めの検討・実施。		2. 入学生全員への PC 貸与により、学生の学習環境の確保ができた。				
2. 充実した学生生活支援。	2. 充実した学生生活支援。		3. 大学院会議において、特に博士課程の入学者に関しては、研究遂行の能力の査定が				
3. 一般入試方式重視による入学生の	3. 一般入試方式重視による入学生の		必要であることが確認された。また、本審査の前段階として予備審査を設けるなど、				
質的向上	質的向上		段階的に審査を実施することの検討も行っていく。				
「評価指標」	「評価指標」						
・学修環境の整備状況	・学修環境の整備状況						
【計画 17-8】 🍞							
│ │ 産学協同体制の構築によるブランド							
カ向上プロジェクトの推進を図る。							

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
「計画達成のための方策」	【年度計画 17-8】						
産学協同体制の構築によるブランド	産学協同体制の構築によるブランド	Ш	産学協同体制の構築によるブランドカ向上を図るために、計画 1-4 を立案した。				
力向上を図る。	力向上を図る。		1. 卒業生との交流活性化によるPR効果の促進では、大学院公開講座を開催し、学び				
1. 卒業生との交流活性化によるPR	1. 卒業生との交流活性化によるPR		の交流を図った。				
効果の促進。	効果の促進。		2と4では、産学協同研究成果の対外的なPR促進では、企業との産学連携のもと、				
2. 産学協同研究成果の対外的なPR	2. 産学協同研究成果の対外的なPR		特別教授制度による先端研究を実施している講師を招聘しての研究会などを開催し				
促進。	促進。		<i>t</i> =。				
3. 地域社会との連携によるPR促進。	3. 地域社会との連携によるPR促進。		3. 地域社会との連携によるPR促進では、市区町村や企業との連携をすることによっ				
4. 特別教授制度による先端研究導入。	4. 特別教授制度による先端研究導入。		て産学協同体制の構築によるブランドカ向上を図る。 学内の総合研究所や産後ケア				
「評価指標」	「評価指標」		研究センターなど、産官学連携による事業も展開、開始され、PR促進に繋がってい				
・ブランドカ向上プロジェクトの推	・ブランドカ向上プロジェクトの推		る 。				
進状況	進状況						
〇大学院看護学研究科							
【計画 18】 🕏							
大学院修士課程における課題研究及							
び特別研究の成果について、修了後1							
年以内に口頭発表を行うとともに、誌							
上発表を行い、発表数を増加させる。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 18】						
1. 研究倫理審査レベルの向上。	1. 研究倫理審査レベルの向上。	IV	1.2. 研究発表会並びに大学院教授会を通して大学院生と指導教員への啓発を行い令				
2. 迅速な審査と結果の伝達。	2. 迅速な審査と結果の伝達。		和3年度修士課程修了者30名中14名(47%)が1年以内に学会発表を行ない、4編				
「評価指標」	「評価指標」		の誌上発表が行われた。				
・小委員会委員全員の倫理審査委員	・小委員会委員全員の倫理審査委員		・倫理審査委員向けの受講者は2名増加し、受講終了者は委員7名中4名となった。				
向けの研修の受講状況	向けの研修の受講2名		・審査日後の結果伝達は平均 0.7日(0~2日)であり、迅速に結果をまとめた上で報				
・審査日後 2 日以内の申請者への結	・審査日後 2 日以内の申請者への結		告できた。				
果伝達。	果伝達。						
〇大学院千葉看護学研究科							
【計画 19-1】							
研究科修士課程においては、各指導教							
員の役割分担と連携体制を明確にし							
て指導教員間の綿密な協議に基づき、							
DPを実現する体系的な大学院教育							
を行うこととし、院生の質を保証する							

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
	,	区分	,	区分		区分	
組織的な教育・研究指導体制の充実を		<u> </u>		E-71			
図る。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 19-1】						
1. 地域交流イベントにおける活動の	1. 地域交流イベントにおける活動の	Ш	 1. 交流イベントにおいて学生を主体とする発表を行った:1 回				
実施。	実施。		 ・本発表を実践報告として次年度(令和 5 年度)紀要ならびに JCHO 学会に発表予定				
千葉看護学部の地域交流イベントに	 ①専門職からなる情報交換の会を開		である。				
おいて、院生を主体とする企画を実施	 催し、ニーズの把握をはかる。						
し、主として西船橋地区住民のニーズ	②成果を活動報告として紀要等に一						
に応える保健医療の連携に貢献する。	つ以上発表する。						
「評価指標」	「評価指標」						
・地域交流イベントでの企画数、参加	地域交流イベントでの企画数(1つ以						
住民等からのアンケート結果、参加学	上)、参加住民等からの肯定的な意見、						
生からのアンケート結果	参加学生からの肯定的な意見、活動報						
	告公開数(1つ以上)						
2. 修了生の研究発表支援の実施。	2. 修了生の研究発表支援の実施。	Ш	2. 毎月行う研究指導教員で行う研究科運営会議おいて、特別研究の進捗状況について				
修了生の研究成果の公開を支援し、実			共有し、外部審査担当を置いた特別研究の審査体制を明文化し、初の修士課程修了生				
装的研究実施支援の在り方を検討す			5名を輩出することができた。合わせて、終了後の学会発表・論文公表への支援を継				
る。 - 	る検討会を開催する。		続するための研究生制度も導入し、修了生5名のうち4名がエントリーした。また、				
「評価指標」	「評価指標」		学内外の関係者に公開する発表会を開催した。研究科教員、学部教員ほか、病院の看				
	・研究科学生による地域交流イベン		護部長の参加も得ることができた。				
会誌等へのアクセプト数、及び内容、			・研究科学生により、地域交流イベントで、研究科の学修成果を発表した。DPに照ら				
自己/第三者評価結果	容に関する審査及び研究科教授会で		した評価は研究科運営会議では行ったが、研究科教授会では未実施である。 				
	のDPに照らした評価結果						
3. 教育活動と成果の点検評価及び改	3. 教育活動と成果の点検評価及び改	Ш	3. 令和3年度の学生からの授業評価アンケート結果を、8月に各科目で検討し、後期				
善活動の推進。	善活動の推進。		の教育活動ならびに令和5年度授業改善に活用した。令和4年度前期・後期開講科目				
学生からの授業評価並びにそれに対	①前年度の学生授業評価、及び当該年		については、今年度の履修者や修了生の状況を資料として、各科目ならびに研究科運				
する教員の自己評価、各会議での検討	度の終了時点での修了生の状況を資		営会議で改善点の検討を行った。特に、1 年次後期必修科目の「看護機能推進演習」				
等に基づき、大学院DPに照らした点	料とした点検評価会議を開催し、DP		については、点検評価会議を開催し、1年次前期必修科目の「看護機能推進特論」や				
検評価を行い、CP、AP及びDPの	の達成状況を評価するとともに、改善		「特別研究」その他の科目との関連を含め、入学者のレディネスを考慮し、DP の達成				
改定に向けた準備を行う。	点を検討する。		に向けて効果的に運営する方策について意見交換し、議事録として改善計画報告書を				
「評価指標」	「評価指標」		作成した。また、和歌山看護学研究科と合同で「修士論文作成における学びの過程と				
・検討会の開催回数、成果物としての	・検討会の開催回数 (年2回)、成果		指導・支援のポイント」という合同学習会を行い、入学者のレディネスに合わせた指				
新カリキュラムの有無と内容	 物としての点検評価・改善計画報告書		導について検討した。				

なり 指力 押手 両	△和4年申赴市		今和 / 在在 社面连贯供证		- 白口占投,冠体未是合		古如陈伊哥提准办学
第3期中期計画	令和4年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
	とその内容	区分		区分		区分	
	C COPI A						
【計画 19−2】 🥝							
修了生の研究成果の公開を支援し、実							
装的研究実施支援の在り方を検討す							
る。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 19-2】						
研究科DPにのっとり、保健医療福祉	特別研究の進捗情報を共有し、成果公	IV	・「特別研究」は、初開講であるため、授業評価アンケート結果はまだ届いていない				
における地域連携の推進と看護機能	開を見通した支援の在り方に関する		が、研究指導教員で毎月開催する研究科運営会議の場を中心に、特別研究の進捗状況				
の明確化をめざした修了生の研究成	検討会を開催する。		を共有し、学会発表や学会誌投稿を視野にいれた支援の在り方を検討した。				
果の公開を支援し、実装的研究実施支							
援の在り方を検討する。							
「評価指標」	「評価指標」						
・学生の授業評価アンケートによる	・学生の授業評価アンケートによる						
授業の質評価、修了生の研究成果の公	授業の質評価、修了生の研究成果の公						
開数、地域連携の推進や看護機能の明	開数、地域連携の推進や看護機能の明						
確化に関する情報交換会等の開催数	確化に関する情報交換会等の開催数						
【計画 19-3】 🍞							
優秀な学生を確保する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 19-3】						
基盤となる人材の獲得をめざし、入	入試説明会や個別説明会の開催とこ	Ш	・千葉県内の施設 470 箇所ならびに、JCHO 病院・看護学校 60 箇所に募集ポスター配				
試・広報活動等を通して、保健医療組	れに先立ち主として千葉県内の施設		布を2回行った上で、入試説明会は2回開催し、個別相談は15名に実施した。学生				
織及び個人に本学及び本研究科のビ	とJCHO病院への募集ポスター配		へのアンケートとの照合は未着手であるが、本学研究科志願理由や、入学後の科目選				
ジョンを伝え、これに共鳴する受験生	布を行い、めざすビジョンを伝える。		択、研究テーマ設定から、本学研究科で目指す地域医療の場で看護機能を推進する人				
の獲得を図る。また、保健医療の現場	入学後の科目選択や研究テーマ設定		材像と一致していることを確認できている。				
に直接貢献しようとする人材を育成	においては修了後のイメージを確認						
するため、修了後の臨床現場での活躍	しながら指導を行う。						
イメージをもって学修・研究が実施で							
きるよう学生支援を行う。							
「評価指標」	「評価指標」						
・学生の授業評価アンケートによる	・学生の授業評価アンケートによる						
大学・研究科ビジョンへのコミットメ	大学・研究科ビジョンへのコミットメ						
ント状況、科目選択や研究テーマ設定	ント状況、科目選択や研究テーマ設定						
における修了後の就業イメージとの	における修了後の就業イメージとの						

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
一致状況、修了後に保健医療現場へ就	一致状況、修了後に保健医療現場へ就			-73			
職・復帰する修了生数、修了生の現場	職・復帰する修了生数、修了生の現場						
での活動状況	での活動状況						
【計画 19-4】⑦							
仕事を持つ学生への修学支援等を行							
う。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 19-4】						
1. 学生が仕事を継続しながら学修で	1. 令和 3 年度及び当該年度の授業実	IV	1. 令和3年度および4年度の授業実施・出席状況ならびに、学修成果について、研究				
きるよう時間割を工夫するとともに	施・出欠席状況をもとに、時間割を評		科運営会議にて検討した。その結果を受け、選択必修科目の時間割上表裏を最小にし				
遠隔授業とそのサポートの仕組みを	価し、改善点を洗い出したうえで令和		たり、履修希望者の多い隔年開講科目を毎年開講としたり、複数科目について、研究				
整備する。	5年度時間割の作成を行う。遠隔授業		デザイン検討と連動するような開講時期に変更するなどの改善を行って、令和5年度				
	に対する学生の適応状況を授業への		時間割を作成した。令和4年度の入学者は11名全員が社会人であり、令和5年度の				
	参加状況等から把握し、適宜、サポー		入学予定者 10 名もすべて社会人となっている。				
	トを行う。						
2. 科目等履修制度の整備・活用を推進	2. 入試説明会等を通して科目等履修	Ш	2. 科目等履修制度ついて、入試説明会だけでなく、個別相談でも周知し、ホームペ				
する。	制度を周知し、より多くの医療人に学		一ジ上でも募集案内を行い、令和4年度2名、令和5年度1名				
	修機会を提供する。		の科目等履修生の利用があった。				
3. 地域交流イベントやWEB掲載等	3. 地域交流イベントにおいて研究科	Ш	3. 地域交流イベントで、研究科主催の公開授業は行わなかったが、大学院学生によ				
により研究科主催の公開授業を実施	主催の公開授業を行う。		る学修成果報告を行った。				
する。							
「評価指標」	「評価指標」						
・学生の授業評価アンケートによる	・学生の授業評価アンケートによる						
出席のしやすさ・サポート評価、仕事	出席のしやすさ・サポート評価、仕事						
を継続しながらの入学生数、欠席・休	を継続しながらの入学生数、欠席・休						
学状況、科目等履修制度利用者数、研	学状況、科目等履修制度利用者数、研						
究科主催の公開授業実施数	究科主催の公開授業実施数						
【計画 19-5】 🍞							
地域連携に関する共同研究を実施す							
る 。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 19-5】						
保健医療福祉における地域連携の推	カリキュラムに基づいた授業を行い、	IV	・令和3年度入学者9名から、初の修士課程修了生5名を輩出し、修士論文に対する				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
進と看護機能の明確化に関する独自	授業ごとの学生からのリアクション		学外審査も得ることができ、発表会では病院看護管理者の参加も得た。個人の事情で				
の講義・演習を開発・展開し、これを	や科目終了時の授業評価、地域交流イ		1名が退学したものの、1名は働きながらの研究の継続として卒業を延期しており、				
基盤とした修士研究の指導、及び共同	ベント等での発表会での意見交換を		2名は休学を活用し、修了に向けている。修了生5名からは、カリキュラム全体を通				
研究を行う。	通して、授業の質を確認する。授業が		じて、DPを達成する力を獲得したとの高評価を得ている。教員のピアレビューを通し				
	修士研究に与える影響を意見交換し、		て、入学後に科目を履修しながら、研究テーマを焦点化するカリキュラムであり、働				
	授業改善につなげる。地域連携に関す		きながら履修する状況に合わせていく上では、修士研究としての質向上に向けた1年				
	る共同研究実施の可能性を探る。		次からの指導上の工夫と履修年限に関する学修支援を行う必要性を確認している。修				
「評価指標」	「評価指標」		士論文のテーマはいずれも地域連携を推進する研究であり、令和5年度に各看護系学				
■ 研究科内での教員によるピアレビ	・研究科内での教員によるピアレビ		会等で共同研究として、学会発表、学会誌投稿を予定している。				
ュー数と評価、修士論文に対する学内	ュー数と評価、修士論文に対する学内						
外の評価、保健医療福祉における地域	外の評価、保健医療福祉における地域						
連携の推進と看護機能の明確化に関	連携の推進と看護機能の明確化に関						
する共同研究の数	する共同研究の数						
〇大学院和歌山看護学研究科							
【計画 20-1】 🍞							
教職員体制の充実のもと、DPを実							
現するための教育方法を開発し学生							
の学びの質を保証する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 20-1】						
1. 社会人学生の学びを推進する教育	1. 大学院担当教員の充実	Ш	1. 准教授、講師を特論、演習科目に配置し、修士論文審査では新たに准教授を中心に				
方法を開発する。	①社会人学生の学びを推進する教育		副査として配置し、充実を図った。社会人学生であるため、学びの準備のために入学				
	方法を検討する。		前教育を実施した。また学びを推進する教育方法を検討するため、修了生、在学生、				
	②遠隔地でも学びを可能にする教育		教員を対象に「教学調査」を実施した。学習環境については8割が満足という結果で				
	方法、教育体制を検討する。		あった。自由記載から、ICT スキルの向上とそれらが学修成果に繋がるように、				
「評価指標」	「評価指標」		Desknet's や WebClass といった学修支援アプリケーションを説明する機会を設け				
・教育方法と教育体制の検討・開発状	・教育方法と教育体制の検討・開発状		た。対面、オンライン、ハイブリットに対応できる受講環境の整備し、遠隔地からも				
況、大学院担当教員数	況、大学院担当教員数		学べる環境が整った、大学院生室の環境整備を行った。				
・遠隔地でも学べる学習環境の整備			・大学院担当教員数は、開設当初の教授7名、准教授2名、講師3名から、今年度は				
状況			教授8名、准教授9名、講師5名となった。新規教員の多い体制であったために教育				
			方法検討については、次年度の課題として引き続き検討したい。				
2. 修了生の研究成果の公表を支援す	2. 修了生の研究成果の学会への発表		2. 修了生に学会発表と学会誌への投稿について継続して指導することを伝え、指導教				
3 .	とその後の投稿を支援する。		授は支援した。学生の連絡先の登録ができたため、支援体制の構築に向けては次年度				
「評価指標」	 「評価指標」		に検討する。				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
・学会等での発表および学会誌等へ	・学会等での発表および学会誌等へ		・令和3年度修了生10名中、学会発表は今年の発表予定を含め6名、投稿は紀要に				
の投稿数及び内容の状況	の投稿数及び内容の状況		1名、学会誌に2名行い、1名は学会誌に原著で受理された。				
【計画 20-2】 🍞							
学生の社会生活と学習を両立できる							
環境整備を図る。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 20-2】						
各種奨学金、補助金等に関する情報	1. 各種奨学金、補助金等に関する情	IV	1. 各種奨学金、補助金等について、入試説明会、大学院教務ガイダンスで行っている。				
収集と獲得及び学生への周知を行う	報収集と獲得及び学生への周知を行		学生募集に大きく関わるために具体的な説明を実施した。特に教育訓練給付制度につ				
とともに、学生の学べる時間に応じ	う。		いては、入学1か月前までに申請が必要なため間に合うように説明を行った。				
た学習方法の検討を行い、科目履修	2. 学生の学べる時間に応じた学習方		2. 学生の学べる時間に応じた学習方法の検討(e - ラーニングなど)は、検討を継続				
での学びを勧める。	法の検討を行う(e - ラーニングな		する。				
「評価指標」	ど)		3. 科目履修は入学につながる可能性があるために、入学説明と同時に科目履修につい				
・各種奨学金、補助金の獲得状況	3. 科目履修での学びを勧める。		ての説明も行い、広報活動を行っている。				
・学生の学べる時間に応じた学習方	「評価指標」		・教育訓練給付金制度は令和 5 年度から開始のために説明を受けた入学予定の 3 名				
法の開発状況(e-ラーニングなど)	・各種奨学金・補助金の獲得状況		が手続きを行っている。対面、オンライン、オンデマンド、ハイブリッドの環境が整				
科目履修生制度の利用状況	・学生の学べる時間に応じた学習方		ったため、科目レベルでそれらを有効に活用するための検討を継続する。学習方法の				
	法の開発状況(e-ラーニングなど)		開発は次年度継続して検討する。				
	・科目履修生制度の利用状況		今年度の科目履修制度の利用はなかったが、令和5年度は3名の予定である。				
【計画 20-3】⑦							
修了生の学修継続支援を行う。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 20-3】						
修了生の研究成果発表の機会を確保	修了生の研究成果発表の機会を確保	П	・修了生の研究成果発表の機会の確保については、修士論文指導教員が主として個別				
するなどにより、修了生の学修継続支	するなどにより、修了生の学修継続支		的に行っている現状である。				
援を行う。	援を行う。		修了生の動向を把握し、学習支援機会について検討を始めたところである。教務委				
「評価指標」	「評価指標」		員会が推進するシステムを構築する予定である。				
・修了生の学習支援機会の確保数	・修了生の学習支援機会の開催数		研究成果としては、修了生1名が日本看護協会認定看護管理者に合格した。研究成果				
・研究成果の発表と投稿数	・研究成果の発表と投稿数		の発表と投稿数は【年度計画 20-1】の評価で示した。				
○助産学専攻科							
【計画 21-1】⑦							
教育理念・教育目標に沿った教育プロ							
グラムを構築する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 21-1】						

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
1. 教育理念に則った教育プログラム	1. 教育理念に則った教育プログラム	Ш	1. 母子保健法の改正により、助産師は生後1年までの母子の支援が求められるた				
の確立。	の確立。		め、カリキュラム変更を行い「乳幼児の発育・発達とケア」を新規科目として立ち				
1) 明確な教育目標の設定。	1) 明確な教育目標の設定。		上げた。本科目では、新生児科医師の講義も多く配置し、健診時の診断能力の向上				
2)教育目標に応じたカリキュラムの	2)教育目標に応じたカリキュラムの		も目指している。				
再構築	再構築		2.CBT や OSCE が今後、国家試験での新規取り組みとして導入が見込まれるため、全				
2. 新しい教育制度の導入	2. 新しい教育制度の導入		国助産師教育協議会での取り組みにも参加し、次年度以降実施していくための準備を				
1)主体的な学修を促す教育方法の導	1) 主体的な学修を促す教育方法の導		行った。ただし、OSCEの実施にあたっては、学生1名あたりに多大な時間を要するた				
Д	入		め、実施方法に関して検討が必要である。				
2)ルーブリック評価法などを活用	2) ルーブリック評価法などを活用		裂傷縫合演習は今年度も実施した。経腹エコーは機器の購入が図られた。次年度以				
し、学生へもわかりやすい評価の提	し、学生へもわかりやすい評価の提		降演習内に取り入れていく。				
示	示						
3) CBT・OSCEの実施	3) CBT・OSCEの実施						
4) 裂傷縫合・経腹エコーの技術の獲	4) 裂傷縫合・経腹エコーの技術の獲						
得	得						
「評価指標」	「評価指標」						
・新しい教育制度の導入状況	・新しい教育制度の導入状況						
・主体的な学修を促す教育方法の導	・主体的な学修を促す教育方法の導						
入状況	入状況						
【計画 21-2】⑦							
産後ケアセンターでの実習を通し、地							
域の母子を支援する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 21-2】						
1. アーリー・エクスポージャーの一環	COVID-19 禍でオンライン育児クラス	Ш	1、6、7. 産後ケア研究センターが、地域で生活している母子の支援に触れることが				
として、産後ケア研究センターなど、	の開始。		でき、助産学専攻科の実習施設として成立してきている。				
現場で働く助産師活動に触れる。	1. アーリー・エクスポージャーの一環		また、オンライン育児クラスの開催によって、コロナ禍における地域の母子の実際				
2. 地域や海外で助産師活動に従事す	として、産後ケア研究センターなど、		や支援ニーズを学ぶ機会となった。				
る講師の招致。	現場で働く助産師活動に触れる。		2. 地域母子保健学の講義内で、地域や海外で活躍する医療職の話を聞き、異なる文				
3. NCPR、受胎調節実地指導員講習	2. 地域や海外で助産師活動に従事す		化圏における学習の機会を設けた。				
会の開催。	る講師の招致。		3. 各講習会を受講し実践演習を行った後、試験に合格して資格認定を受けた。				
4.1 人あたり 10 例程度確実に分娩介	3. NCPR、受胎調節実地指導員講習		4. コロナ禍により、実習受け入れ人数や受け入れ期間の減少などあるが、学内実習				
助実習を行い、臨床経験の確保。	会の開催。		での補充も含め、10 例程度の分娩介助を確保できた。				
5. 新カリキュラムの検討。	4.1 人あたり 10 例程度確実に分娩介		5. 母子保健法の改正により、産後ケアの対象は産後1年までの母子となったことか				
6.地域に貢献できるように、妊産婦・	助実習を行い、臨床経験の確保。		ら、「助産診断・技術学」や新設した「乳幼児の発育・発達とケア」において、1年				
乳幼児健診の実習の機会を増やす。	│ │5. 新カリキュラムの検討。		までの母子を診る力の向上に努めている。				

第3期中期計画	令和4年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会諱
		区分		区分		区分	
7. 生活の場における地域での母子支	6. 地域に貢献できるように、妊産婦・						
爰の在り方について考えていける。	乳幼児健診の実習の機会を増やす。						
	7. 生活の場における地域での母子支						
	援の在り方について考えていける。						
「評価指標」	「評価指標」						
・実習の受入れ状況	・実習の受入れ状況						
【計画 21-3】 🦻							
大学と臨床施設との連携を図り、							
大学大学院までのキャリアを見据え							
た教育を実施する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 21-3】						
NCPR講習会や受胎調節実地指	1. NCPR講習会や受胎調節実地指	Ш	1、2. 産後ケア研究センターの従事者研修会やNCPR講習会など、実習施設にも公				
尊員講習会の開催。	導員講習会の開催。		開し、臨床スタッフの参加も促している。				
. 産後ケア研究センターの従事者研	2. 産後ケア研究センターの従事者研		3. 本学で開催した東京母性衛生学会学術セミナーに、実習施設の助産師の参加が多				
多会への参加。	修会への参加。		数あった。				
3. 東京母性衛生学会学術セミナーの	3. 東京母性衛生学会学術セミナーの		4. オンラインで実習協議会を開催し、今年度の実習指導の振り返りや次年度に向け				
参加。	参加。		ての検討を行った。今年の卒業生の実習施設への就職率は40%程度に増加した。				
1. チーム医療推進助産師研修会への	4. チーム医療推進助産師研修会への						
参加。	参加。						
5. 実習協議会の開催。	5. 実習協議会の開催。						
「評価指標」	「評価指標」						
・実習施設への就職率	・実習施設への就職率						
【計画 21-4】 🍞							
研究レベル向上の為の大学教育プロ							
グラムを確立する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 21-4】						
研究レベルに裏付けられた大学での	研究レベルに裏付けられた大学での	П	・研究レベル向上の為の大学教育プログラムを確立するために、研究レベルに裏付け				
人材育成を図る。	人材育成を図る。		られた大学での人材育成を図る計画 1−4 を立案した。				
. 体系的なカリキュラムの構築。	1. 体系的なカリキュラムの構築。		1. 体系的なカリキュラムの構築として、共通科目から個別的な専門科目、そして修士・				
2. 学部・大学院の一貫教育の導入。	2. 学部・大学院の一貫教育の導入。		博士論文作成の研究に至るまでを段階的に学べるように、研究特論など基礎的科目も				
3. 国際会議発表の推進。	3. 国際会議発表の推進。		充実させた。				
4. 産学連携・地域連携による共同研究	4. 産学連携・地域連携による共同研究		2に関しては、進行はできなかった。				
の推進。	の推進。		│ │4 の産学連携・地域連携による共同研究の推進を図ることで、計画 3 の国際会議発表				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
「評価指標」	「評価指標」		の推進に導けるように取り組んでいる。				
・研究レベル向上の為の大学教育プ	・研究レベル向上の為の大学教育プ		取り組みの中で、研究レベル向上の為の大学教育プログラムの作成を図るために、研				
ログラムの作成状況	ログラムの作成状況		究のスケジューリングを指導している状況である。				
【計画 21-5】 🕜							
研究レベル向上の為の教育プログラ							
ムの確立を図るとともに、学際的・国							
際的な視点から自分の専門性を認識							
できる人材育成のシステムを整備す							
る。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 21-5】						
研究レベルに裏付けられた大学院で	研究レベルに裏付けられた大学院で	П	研究レベル向上の為の大学教育プログラムを確立するために、研究レベルに裏付けら				
の人材育成を図る。	の人材育成を図る。		れた大学での人材育成を図る計画 1-4 を立案した。				
1. 体系的なカリキュラムの構築。	1. 体系的なカリキュラムの構築。		1. 体系的なカリキュラムの構築として、共通科目から個別的な専門科目、そして修士・				
2. 学部・大学院の一貫教育の導入。	2. 学部・大学院の一貫教育の導入。		博士論文作成の研究に至るまでを段階的に学べるように、研究特論など基礎的科目も				
3. 国際会議発表の推進。	3. 国際会議発表の推進。		充実させた。				
4. 産学連携・地域連携による共同研	4. 産学連携・地域連携による共同研		2に関しては、進行はできなかった。				
究の推進。	究の推進。		4の産学連携・地域連携による共同研究の推進を図ることで、計画3の国際会議発表				
「評価指標」	「評価指標」		の推進に導けるように取り組んでいる。				
・年1回以上の学会・研修会への参加	・年1回以上の学会・研修会への参		取り組みの中で、研究レベル向上の為の大学教育プログラムの作成を図るために、研				
・勉強会・抄読会の実施状況	加		究のスケジューリングを指導している状況である。				
・実践的英語教育の導入状況	・勉強会・抄読会の実施状況						
・英語抄録作成クラス開催状況	・実践的英語教育の導入状況						
・学生の海外学習状況	・英語抄録作成クラス開催状況						
・論文の学会発表状況	・学生の海外学習状況						
・海外論文発表経験者数の	・論文の学会発表状況						
	・海外論文発表経験者数の状況						
【計画 21-6】 🍞							
助産学専攻科のアメニティ空間の改							
善を図る。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 21-6】						
キャンパス教育環境向上プロジェク	キャンパス教育環境向上プロジェク	П	1、2. 講義教室が大学院と共有であるため、常時使用できるわけではなく、使用教室				
トを推進する。	トを推進する。		が日によって変わってしまい、学生の学習環境の確保が求められる。				
1. 施設のアメニティ空間の改善。	1. 施設のアメニティ空間の改善。		3. 学生の分娩介助演習のために、分娩介助モデルを新規購入したが、学生数に対し				
2. グローバル化に対応する施設環境	2. グローバル化に対応する施設環境		不十分であるので、充足させていく。				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
整備。	整備。						
3. 良質な学修環境整備。	3. 良質な学修環境整備。						
「評価指標」	「評価指標」						
・キャンパス空間の整備状況	・キャンパス空間の整備状況						
【計画 21-7】⑦							
大学ブランドを学生が認めて受験し							
たいと思える大学及び助産学専攻科							
をつくる。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 21-7】						
産学協同体制の構築によるブランド	1. 卒業生との交流活性化によるPR	Ш	1-3.産後ケア研究センターでの取り組みや、助産雑誌や育児雑誌、インターネット				
力向上を図る。	効果の促進		への寄稿、ホームページでの紹介などの PR 促進効果により、オンラインでの助産学				
1. 卒業生との交流活性化によるPR	2. 産学協同研究成果の対外的なPR		専攻科のオープンキャンパスでは、参加者 100 名程度と大変盛況であり、本学に進				
効果の促進。	促進		学したいと思ったなどの感想が多かった。				
2. 産学協同研究成果の対外的なPR	3. 地域社会との連携によるPR促進		一般入試の受験者は 70 名程度であり、志願者倍率は、5 倍以上となった。				
促進。	4. 特別教授制度による先端研究導入		5. 【年度計画 21-2】を参照。授業の一環で、海外で活躍する医療職の話を聞く機会				
3. 地域社会との連携によるPR促進。	5. 国際交流グローバル化推進		を設け、将来のキャリア選択の一助としている。				
4. 特別教授制度による先端研究導入。							
5. 国際交流グローバル化推進。							
「評価指標」	「評価指標」						
・一般入試志願倍率 5 倍以上	·一般入試志願倍率 5 倍以上						
〇和歌山助産学専攻科							
【計画 22-1】 🍞							
「災害と助産」の必修科目を踏まえ、							
平時から備える能力を養うことで一							
歩先を見据えた教育を行う。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 22-1】						
全国でリスクが高まっている大地震	「災害と助産」履修によって、母子保	IV	・地震をはじめとした災害時の助産や母子保健について、備えから発生直後、中長期にわ				
を中心とした災害における周産期医	健における災害時への関心が高まる		たる避難所生活に至るまで、専門家を招聘してオムニバス方式で多面的に授業を行った。				
療について専門的に学ぶ「災害と助	授業アンケートの実施。		・アンケートによると「基本的な専門知識が得られた」「新しい考え方や発想が得られた」				
産」を必修科目に設定したところであ			「総合的に満足できた」の問いに全員が「思う」と回答した。和歌山県の実情に沿った現実				
り、周産期の母子や多様化するセクシ			的な授業を展開できた。				
ュアリティーにも着目し、平時から備							
える能力を養う。							

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会請
		区分		区分		区分	
「評価指標」	「評価指標」						
・「災害と助産」履修によって、母子	・「災害と助産」履修によって、母子						
保健における災害時への関心が高ま	保健における災害時への関心が高ま						
る授業アンケートの実施状況	る授業アンケートの実施状況						
【計画 22-2】 🍞							
必修科目の「カウンセリング論」を踏							
まえ、喪失体験者への接し方について							
演習を通して学び、寛容、愛、心温か							
い医療人としての態度を修得する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 22-2】						
必修科目に「カウンセリング論」を編	「カウンセリング論」履修によって、	IV	・臨床カウンセラーである講師の演習を行った。				
成し、非常勤講師に公認心理師兼臨床	心温かい医療人としての接し方につ		アンケートでは、「基本的な専門知識が得られた」「新しい考え方や発想が得られた」				
心理士兼大学病院でのカウンセラー	いて理解する、授業アンケートを実施		「発展的な学びにつながる」「総合的に満足できた」の問いについて全員が「思う」				
の授業を通して、ペリネイタルロスな	する。		と回答した。このような実践的な演習は初めてで、実習前に有意義だったという声が				
ど喪失体験者への接し方について演			多かった。				
習を通して学び、寛容、愛、心温かい							
医療人としての態度を修得する。							
「評価指標」	「評価指標」						
・「カウンセリング論」履修によって、	・同左						
心温かい医療人としての接し方につ							
いて理解する授業アンケート実施							
【計画 22-3】⑦							
一歩先を見据えながら助産を創造し、							
地域周産期医療向上に寄与できる助							
産師の育成を図る。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 22-3】						
和歌山看護学部から進学を希望する	和歌山県立高等看護学院助産学科学	IV	・実習施設の確保の問題から定員には満たないが、8名の合格者全員が入学した。				
者及び地域周産期医療への貢献を希	生募集の最終年度であり、県内3校の		・実習施設の現状から80%の定員充足率であった。就職率は100%で、助産師国家試験は				
望する受験生を、西日本を中心に広く	助産師養成となるため、実習施設確保		全員が受験し100%の合格率であった。				
リクルートし、優秀な人材を確保す	の問題から定員充足率を 80%とす						
る。また、修了後は助産師国家試験に	る。助産師国家試験合格率 100%、就						
合格し、希望する就職ができるよう支	職率 100%とする。						
援する。	「評価指標」						

第3期中期計画	令和 4 年度計画	 評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
「評価指標」	定員充足率の状況						
・定員充足率の状況	・助産師国家試験合格率、就職率の						
・助産師国家試験合格率、就職率の	状況						
							
【計画 22−4】 🍞							
国際的視野と研究力を備え、国際母子							
呆健分野で将来リーダーとなる資質							
を養成する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 22-4】						
グローバル化の問題を解決するため	ガイダンスで「国際母子保健活動論」	IV	・ガイダンスで当該科目の意義を説明した				
の「国際母子保健活動論」及びリアル	の選択の必要性を説明し、学生全員が		全員が選択した。授業アンケートでは、「専門知識が得られた」や「新しい考え方				
タイムで世界の母子保健情勢を英語	履修または聴講する。学会に1回参加		や発想が得られた」「この授業は総合的に満足できた」に全員が「思う」と回答する				
で学ぶ「英語文献講読(必修科目)」	する。		など関心は高かった。令和4年9月の日本母性衛生学会学術集会に全員が参加し、履				
D履修、加えて大規模な専門分野の学			修状況と授業評価も踏まえ、国際母子保健について視野を広め、将来のリーダーとな				
会参加も含めて、国際的視野と研究力			る資質を養成できた。				
を備え、国際母子保健分野で将来リー							
ダーとなる資質を養成する。							
「評価指標」	「評価指標」						
・ガイダンスで「国際母子保健活動	・同左						
倫」の履修または聴講状況							
・学会への参加状況							
○感染制御学教育研究センター							
【計画 23-1】⑦							
「感染制御実践看護学講座」を継続す							
るとともに、COVID-19 パンデミック							
を経験し、感染制御に関わる人材育成							
こついて、本学がどのように貢献でき							
るのか、引き続き検討していく							
「計画達成のための方策」	【年度計画 23-1】						
「感染制御実践看護学講座」の継続。	1. 合格者数を 20 名~25 名程度を維	Ш	1. 23 名の合格者のうち、個人的理由で 1 名離脱し 22 名が修了し「感染制御実践看				
. COVID-19 パンデミックを経験し、	持する。		護師」を付与した。				
感染制御に関わる人材育成について	2. 「感染制御実践看護師」資格付与		2. 予定通り「修了試験」を実施した。客観評価は、研修生自身のウイークポイント				
の検討。	のために従来からの考査に加え「修		を明確にできること、さらに「資格認定」のレベルの維持にも重要である。				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
	了試験」を新設し、研修生と講座全		3. 現在検討中。				
	体の評価を実施する。		4. 平成5年の研修生の応募数は定員の2倍に及び、関心の高さをうかがえた。本研修				
	3. 修了生の動向調査を行う。以後、		会は診療報酬上の施設基準「適切な研修」と認められており、わが国の医療施設の感				
	定期的に実施し、結果を公開してい		染対策を担う人材育成機関として大きく貢献していており、今後も本体制を維持しつ				
	く方向で検討する。		つ継続していく。				
	4. 今後の感染制御に関わる人材育成						
	について「特定看護師」育成プログ						
	ラムを含め情報収集していく。						
「評価指標」	「評価指標」						
・合格者数 20 名~25 名を維持	・合格者数 20 名~25 名を維持						
【計画 23-2】 🍞							
JHAI誌発刊を継続するとともに、							
高齢者施設医療従事者に対する感染							
制御の知識普及のためのセンターで							
可能な「研修」の在り方など情報収集							
を行う。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 23-2】						
1. JHAI誌発刊の継続。	1. 年 2 回の発刊を維持していく。	Ш	1. 予定通り年 2 刊発刊。				
2. 高齢者施設医療従事者に対する感	2. センターで可能な高齢者施設従事		2.「高齢者施設従事者」対象の感染制御に関する研修については、現状のセンターの				
染制御の知識普及は喫緊の課題とな	者への研修体制を構築する。又は高		 運営体制では企画自体難しく、当面高齢者施設従事者をサポートする「感染制御実践				
っていることから、センターで可能な	齢者施設の感染制御の底上げのため		看護師」の育成に注力していく。				
「研修」の在り方などの情報収集。	にセンターで貢献できることを検討						
「評価指標」	する。						
・JHAI誌発刊年2回の発行維持	「評価指標」						
・高齢者施設従事者への研修体制の	・JHAI誌発刊年2回の発行維持						
構築状況	・高齢者施設従事者への研修体制の						
	構築状況						
○産後ケア研究センター							
【計画 24-1】 ⑦							
▲ 本 ・							
し、地域の母子を支援する。							

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
「計画達成のための方策」	【年度計画 24-1】						
1. アーリー・エクスポージャーのー	COVID-19 禍でオンライン育児クラス	IV	・オンラインでの集団教育を計 3 回実施し、延べ 20 名の母親が参加した。				
環として、産後ケア研究センターな	開始。		・助産師学生 21 名を、地域母子保健学の演習や助産学実習Vの実習内で、地区踏査				
ど、現場で働く助産師活動に触れる。	・助産学実習Ⅳでの集団教育の実施		や家庭訪問の実際、助産管理実習を実施した。電話相談や訪問型ケアの実際を学ぶ				
2. 地域や海外で助産師活動に従事す	・地域母子保健学の実習の遂行		ことができたと学生より評価を受けた。				
る講師の招致。	・助産学実習Vでの助産管理学実習		・母性看護学実習で 12 名、統合実習で 10 名、実習の受け入れをした。				
3.地域に貢献できるように、妊産婦・	の遂行						
乳幼児健診の実習の機会を増やす。							
4. 生活の場における地域での母子支							
援の在り方について検討する。							
「評価指標」	「評価指標」						
・実習の受け入れ状況	・実習の受け入れ状況						
【計画 24-2】⑦							
大学と品川区との連携を図り、大学院							
までのキャリアを見据えた教育を行							
う。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 24-2】						
1. 産後ケア研究センターの従事者研	1. 産後ケア研究センターの従事者研	Ш	1. 産後ケア研究センターの従事者研修会は年度当初、3 日間に渡り実施し、年度途中				
修会への参加。	修会への参加。		にブラッシュアップ研修も実施しており、参加者数は約20名であった。				
2. 東京母性衛生学会学術セミナーの	2. 東京母性衛生学会学術セミナーの		2. 東京母性衛生学会学術セミナーは約50名が参加した。				
参加。	参加。		3. チーム医療推進助産師研修会は、今年度はコロナ禍により中止した。				
3. チーム医療推進助産師研修会への	3. チーム医療推進助産師研修会への						
参加。	参加。						
「評価指標」	「評価指標」						
・研修会の参加者数、参加回数	・研修会の参加者数、参加回数						
【計画 24-3】⑦							
産後ケア研究センターのアメニティ							
空間の改善を図る。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 24-3】						
キャンパス教育環境向上プロジェク	キャンパス教育環境向上プロジェク	П	1-3. 事務職員や従事者が働きやすい環境となるよう、配置転換を行った。また看護学				
トを推進する。	トを推進する。		科学生や助産学専攻科生の実習受け入れに関して、学生が学修しやすい環境整備を図				
1. 施設の長寿命化及び更新(アメニテ	│ │1. 施設の長寿命化及び更新(アメニテ		 っているが、産後ケア研究センター内のみでは狭小のため、他教室を利用して実施し				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	 評価	7		令和] 4 年度計	画達成状況	<u>-</u>	呼価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分							☑		区分	
	ィ空間の改善)。		ている。						-/3			
2. グローバル化に対応する施設環境	 2. グローバル化に対応する施設環境											
整備。	整備。											
3. 良質な学修環境整備。	3. 良質な学修環境整備。											
「評価指標」	「評価指標」											
・キャンパス空間の整備状況	・キャンパス空間の整備状況											
【計画 24-4】⑦												
産学協同体制の構築によるブランド												
カ向上プロジェクトの推進を図る。												
「計画達成のための方策」	【年度計画 24-4】											
産学協同体制の構築によるブランド	産学協同体制の構築によるブランド	IV	1-3. 産後ケ	ア研究セ	ンターでの	取り組み内容	容について、助産雑誌や育児雑誌、	、インタ				
力向上を図る。	力向上を図る。		ーネットへ	の寄稿、	ホームペー	ジでの紹介が	などの PR 促進効果により、利用者	者数が維				
1. 卒業生との交流活性化によるPR	1. 卒業生との交流活性化によるPR		持されてい	る。地域	社会との連	携により、E	1帰り型産後ケアについて、新たな	な形態と				
効果の促進。	効果の促進。		して保健セ	ンター内	で実施でき	るよう、場所	所や物品、人員の検討準備を行っ <u>。</u>	<i>t</i> =。				
2. 産学協同研究成果の対外的なPR	2. 産学協同研究成果の対外的なPR		5. 外国籍の	利用者は	前年度3名	であったが、	、今年度は 10 名と増加しているか	が、外国				
促進。	促進。		語の対応が	可能なス	タッフが従	事しているこ	ことにより、さらに保健センターカ	からも外				
3. 地域社会との連携によるPR促進。	3. 地域社会との連携によるPR促進。		国籍の対象	者の紹介	があり、区	との協力体制	制も調整できてきている。					
4. 特別教授制度による先端研究導	4. 特別教授制度による先端研究導		・産後ケア	の利用者	数は以下の	ように推移し	している。					
入。	入。		4	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度					
5. 国際交流グローバル化推進。	5. 国際交流グローバル化推進。		日帰	325	162	228	223					
「評価指標」	「評価指標」		訪問	344	127	194	202					
・ブランドカ向上プロジェクトの推	・ブランドカ向上プロジェクトの推		電話相談	639	925	367	348					
進状況	進状況		※令和4年	度は、1」	目までの数値	直となってし	いる 。					
○学長戦略本部等												
【計画 25-1】⑦(総合研究所)												
健康情報基盤研究ユニット(TIS)、												
ヘルスシステムデザイン研究ユニッ												
ト (ビーンズ)、教育DX研究ユニッ												
ト (文科省補助) の三本柱となる研究												
ユニットを立ち上げる。												
「計画達成のための方策」	【年度計画 25-1】											
すべての学部・学科の教員が関与する	3 つの研究ユニットで、具体的な研	Ш	・左記の3	つの研究.	ユニットを	立ち上げ、学	中内外に向けての各ユニットの活動	動を模索				
形で、3つの各研究ユニットによる研	究計画を立案し、参加する教職員を		した。令和	4年度は	、健康情報	基盤研究ユニ	ニット、教育DX研究ユニット、^	ヘルスシ				

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
究成果(論文・書籍・知的財産等)が	募集する。		ステムデザイン研究ユニットそれぞれのユニットで具体的な活動を実施した。				
生まれ、その成果を授業に還元する。							
「評価指標」	「評価指標」						
3つの各研究ユニットの設置状況、	・3 つの各研究ユニットの設置状況、						
研究成果の状況	研究成果の状況						
【計画 25-2】 ⑦(総合研究所)							
ヘルスシステムデザイン研究ユニッ							
トの主管により、学生を巻き込んだ研							
究共創行事として「ジャックと豆の木							
ワークショップ」を推進する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 25-2】						
学生有志と教職員の研究共創行事で	「ジャックと豆の木ワークショッ	IV	・ビーンズとの連携のもと「医療と生活を繋ぐヘルスデータ基盤のこれから」と題し				
ある「ジャックと豆の木ワークショッ	プ」を開催し、そこで生まれたアイ		たにヘルスケアDXシンポジウムを、台湾から医療界のゲスト講師を招き、令和5年				
プ」で生まれたアイディアに基づく研	ディアの還元方法を検討する。		2月17日に実施した。対面・オンラインをあわせ52名の参加申込があった。				
究から研究成果(論文・書籍・知的財			・学内学部生や若手教員を対象に、12 月に懸賞論文「アジアとともに歩む一歩先の医				
産等) が生まれ、その成果を授業に還			療保健」を実施。応募論文の中から、学生の部で2組3名が最優秀賞、若手教員の部				
元する。			で、1 名が最優秀賞、2 名が優秀賞を受賞した。最優秀賞、優秀賞の受賞者は、受賞				
「評価指標」	「評価指標」		賞品として 3 月 20 日から 23 日の日程で台湾の医療施設を巡る研修に参加した。				
・「ジャックと豆の木ワークショッ	・「ジャックと豆の木ワークショッ						
プ」の開催状況、研究成果の状況	プ」の開催状況、研究成果の状況						
【計画 25-3】 ⑦(総合研究所)							
教育DX研究ユニットの主管により、							
高校教員、大学教員がともに教育DX							
を学ぶ場としてオンラインシンポジ							
ウムを開催する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 25-3】						
DX演習科目における授業満足度及	ICEモデル適用科目を増やすため	IV	・教育DXユニットのイベントとして、令和4年12月10日に高校教員や大学教員を				
びICEモデルによる自己評価が、D	の説明会を実施する。		主たる対象として、「持続可能な社会を支える大学教育のこれから」と題したシンポ				
X以前よりも20%以上向上する。			ジウムを、対面・オンラインのハイブリッド形式で実施し、計 25 名参加申込みがあ				
「評価指標」	「評価指標」		った。「アクティブ・ラーニングと指導者コンピテンシー」の特別講演、「Society5. Oni				
・DX演習科目における授業満足度	・DX演習科目における授業満足度		おける大学の役割」のパネルディスカッションを行った。				
及びICEモデルによる自己評価の	及びICEモデルによる自己評価の		・令和5年3月13日に、教育支援コンテンツの開発支援を念頭に、教員経験が3年				
状況	 状況						

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
			ンのハイブリッド型で実施、25 名が参加した。				
【計画 25-4】⑦(総合研究所)							
健康情報基盤研究ユニットの主管に							
より、萌芽的研究に対する学内助成活							
動を推進する。							
「計画達成のための方策」	【年度計画 25-4】						
学内助成活動による研究成果や社会	助成対象活動のサポート及びフォロ	П	・TIS株式会社との連携での資金導入により、学内での研究活動の助成を実施。前年				
活動から、研究成果(論文・書籍・知	ーアップの方法を検討し、活動経緯		度2月~3月に実施した学内募集に7件の応募があり、4月に厳正な審査を行い、最				
的財産等)が生まれ、その成果を授業	について関係学会内でのシンポジウ		優秀賞 1 名 (40 万円)、優秀賞 2 名 (5 万円) を選定した。				
に還元する。	ム等で共有する。						
「評価指標」	「評価指標」						
・学内助成活動による研究成果や社	・学内助成活動による研究成果や社						
会活動からの研究成果の状況	会活動からの研究成果の状況						
【計画 25-5】⑦(I R推進室)							
ⅠR推進室として、中期目標・計画や							
アクションプランに基づく諸活動に							
ついて点検評価を行う際、定量データ							
に基づく評価・分析、情報の共有を行							
い、引き続き「全学的な見える化」を							
推進する							
「計画達成のための方策」	【年度計画 25-5】						
1. 授業や学生生活など教学の根幹に	1. 授業や学生生活など教学の根幹に	Ш	1. 学生の学修に関する実態調査アンケート、授業評価アンケートには重要な定点調				
関わる事項について横断的な情報収	関わる事項について横断的な情報収		査であるところ、令和4年度は、分析結果を学生に還元する「IRNews 学生版」の刊				
集・分析を行うことにより、「全学的	集・分析を行うことにより、「全学的		行ができなかったので、このデータに対する意見収集を行えていない。令和5年5				
な見える化」を推進する。	な見える化」を推進する。		月までに「学生版」を公表予定なので、早めに意見収集を行うようにしたい。				
「評価指標」	「評価指標」		「評価指標」				
・学生の学修に関する実態調査アン	・学生の学修に関する実態調査アン		・学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率(継続)59.2%				
ケートの回答率(継続)90%	ケートの回答率(継続)90%		・授業評価アンケートの回答率(継続)62.7%				
・授業評価アンケートの回答率(継	・授業評価アンケートの回答率(継						
続)90%	続)90%						
・分析結果に対する感想や意見の件	・分析結果に対する感想や意見の件						
数 年 10 件	数 年10件						

第3期中期計画	令和 4 年度計画	評価	令和 4 年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
		区分		区分		区分	
2. 高等教育に求められる役割が変化	2. 高等教育に求められる役割が変化	Ш	2. ディプロマ・ポリシーの運用状況等について、IR 推進室運営会議等の関係会議				
している情勢を十分に踏まえ、学修成	している情勢を十分に踏まえ、学修		で報告した。				
果の可視化を図る基盤を整備する。	成果の可視化を図る基盤を整備す		・学修成果の可視化の一環としてキャンパスプランの改修に取り組み、とくに出席				
	る。		状況を学生及び保証人が把握しやすくする機能を実装した。令和5年度から段階的				
「評価指標」	 「評価指標」		に運用予定である。				
・アセスメント・プランに基づく学修			・九州大学で開催された IR 担当者会議に室員 2 名が出席し、情報交換を行った。そ				
成果の定量的評価指標(ディプロマ・	 成果の定量的評価指標(ディプロマ・		│ │の後、近隣大学と連携し、IR 推進室同士の情報交換会を実施した。				
サプリメント)分析結果の報告件数	│ │ サプリメント)分析結果の報告件数		「評価指標」				
(新規) 年2回	(新規) 年2回		 ・アセスメント・プランに基づく学修成果の定量的評価指標(ディプロマ・サプリ				
・学修成果を可視化するためのデー	│ ・学修成果を可視化するためのデー		│ │メント)分析結果の報告件数(新規) 年1回				
タ基盤整備<キャンパス・プラン整備	│ │ タ基盤整備<キャンパス・プラン整備		 ・他大学研修会や高等教育に関する学会・研究会における活動報告件数 年 1 回				
> (継続)	> (継続)						
・高等教育関係団体や他大学からの	・高等教育関係団体や他大学からの						
情報収集(継続)	 情報収集(継続)						
・他大学研修会や高等教育に関する	・他大学研修会や高等教育に関する						
学会・研究会における活動報告件数	│ │学会・研究会における活動報告件数						
年2回	年2回						
3.活力あふれる大学づくりを推進す	 3. 活力あふれる大学づくりを推進す	П	 3. 令和 4 年度は、COVID-19 対策本部が学校する「遠隔授業だより」に掲載するため				
るため、情報分析の結果を積極的に還	│ │ るため、情報分析の結果を積極的に還	_	 の LMS の利用状況データの提供等を行ったが、その反面、 IR 推進室としての媒体発				
元する。	元する。		 行には至らなかった。令和5年度は独自媒体での広報活動を進めていきたい。				
「評価指標」	 「評価指標」		 ・令和4年度は医学中央雑誌ベースで185件の研究業績があったが、令和3年度は				
・広報媒体の発行件数 (IR News・IR			 209 件、令和 2 年度は 202 件であり、1 割程度の減少がみられている。また、原著に				
年報の刊行)年2回	 年報の刊行)年2回		 限れば令和 4 年度は 19 件と、令和 3 年度の 41 件、令和 2 年度の 38 件と比べても大				
学生向け広報媒体の発行件数 年 2	 ・学生向け広報媒体の発行件数 年 2		│ │ 幅な減少といえる。この状況が続くことは望ましくないので、まずは現状を共有し				
			 た上で投稿を促すとともに、引き続きモニタリングにつとめていきたいと考えてい				
・研究業績に関する分析の検討(新	│ ・研究業績に関する分析の検討(新		る。				
規)	規)		「評価指標」				
			・広報媒体の発行件数(IR News・IR 年報の刊行)年 0 回				
			・学生向け広報媒体の発行件数 年0回				
【計画26】【計画2の再掲】							
(学長戦略本部・企画部)							
教育の質保証の観点から、毎年度定期							

						1	
第3期中期計画	令和 4 年度計画		令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会詞
おり初午初山画	744 千皮前凹	評価	71 年 千度 計画	評価	日日点快。計画安貝云	評価	闪即其体础推定去
かに自己点検・評価及び検証を行い、		区分		区分		区分	
その結果について外部評価を実施し							
公表する。また、学長直轄の学長戦略							
本部を中心に、より適切なものとなる							
よう外部評価結果等を踏まえ、教育課							
程及び教育方法等の改善・充実を図							
る。							
○○ 「計画達成のための方策」	【年度計画 26】						
学長直轄の学長戦略本部を中心に、	学長直轄の学長戦略本部を中心に、	IV	・学長直轄の「学長戦略本部」に、「学長戦略本部教学マネジメント・推進 DX プロジ				
全学的な教学マネジメントシステム	全学的な教学マネジメントシステム	14	ェクト要綱」に基づく同プロジェクトチームを5月に設置し、政府の「教学マネジメ				
を構築するとともに、「教学マネジ	を構築するとともに、「教学マネジ		ント指針」等を踏まえ、「学修者本位の教育の実現」のため、「教学マネジメント」が				
メントチェックリスト(仮称)」を運	メントチェックリスト(仮称)」とし		適切に機能しているかを各階層ごとに、恒常的・総合的に点検・評価を実施し、適切				
用し、「大学全体レベル」、「学位	て、「大学全体レベル」、「学位プ		に教育改善が図られるよう、「教学マネジメントチェックリスト」及び「アセスメン				
プログラムレベル」、「授業科目レ	ログラムレベル」、「授業科目レベ		 トプラン」を検討・準備した結果、令和 5 年 1 月 11 日開催の内部質保証推進会議に				
ベル」毎に自己点検・評価及び検証	ル」		て正式に策定した。				
等を行いながら、内部質保証システ	毎のチェックリストを作成し、試行		・同年2月27日には、各部局代表者等に対する説明会を開催し、趣旨や内容等の説				
ムのPDCAサイクルを構築する。	的に運用する。		明を行ったほか、同説明会資料等は学内デスクネッツ内に収納し、いつでも資料や動				
「評価指標」	「評価指標」		画、Q&A を確認できるよう情報共有に努めるとともに、本年度内の試行的な運用に				
・「教学マネジメントチェックリスト	・「教学マネジメントチェックリスト		ついても依頼したところであり、全て年度計画通り実施した。				
(仮称)」の作成及び活用した自己点	(仮称)」の作成及び活用した自己点		https://www.thcu.ac.jp/about/jikotenken/pdf/index/r3/management.pdf				
			https://www.thcu.ac.jp/about/pdf/disclosure/1/assesment.pdf				